

郡山市あさかの学園大学

創立30周年記念誌

創
立
三
十
周
年
記
念
誌

郡山市あさかの学園大学

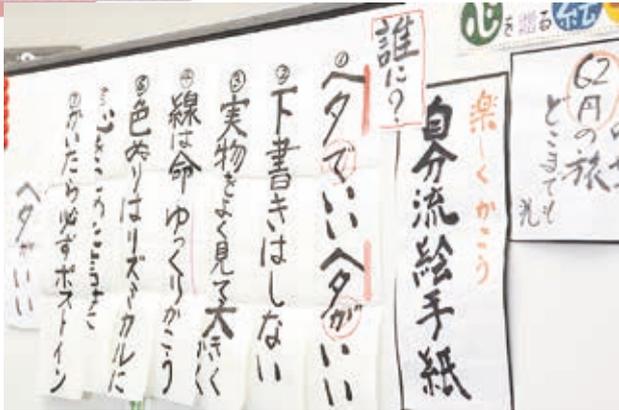


郡山市あさかの学園大学





郡山市あさかの学園大学の学び舎ビッグアイのあるJR郡山駅西口は、平成28年に駅前の交通渋滞緩和のため、郡山駅西口第一種市街地再開発事業による整備から16年ぶりに西口駅前広場の改修を行いました。平成29年の本大学30周年記念の節目の年には、郡山駅南核の平成20年から9年間未利用であった大型商業施設跡にホテルが新装オープンするなど、以前にも増して駅西口の都市機能及び都市景観が充実しました。



授業風景①

▼絵手紙を作ろう



▼調理実習



実は料理男子

▼救急蘇生法



皆、熱心に取り組んでいます



▼気功体操



気をめぐらせて心身のデトックス

▼箏の楽しみ



さくら♪さくら♪が演奏できちゃいました

▼火山噴火の仕組みと被害



模型を使って、わかりやすく！！

▼音楽に親しむ



バイオリンの音色が心に響きます

▼シニアYOGA



座ったままでも効果バツグン

▼わたしを伝える写真



郡山出身の写真家の先生が
写真のおもしろさを伝えます



授業風景②
講師最高齢102歳の神野忠雄先生
の授業「いきいき人生」。
学生最高齢88歳が聴講します。





臨地学習 開成山

◀久米正雄の句碑



▲開拓の心



◀宮本百合子文学碑



▲日本遺産「一本の水路」



◀未来を拓いた「一本の水路」



■開成館にて





現地学習

クラス紹介

教養1 学年健康・福祉 1A



はじける個性 あふれる笑顔の1A

教養1 学年郷土・生活 1B



50人が一丸となり、活発に活動しました。

教養1 学年芸術・文化 1C



笑顔で学ぶ我が友よ！プレイバック青春！

教養2 学年健康・福祉 2A



女性24名 おしゃべりと笑顔 それを支える 男性9名



教養2学年郷土・生活 2B



元気ハツラツ2B よく学びよく遊べがモットー

教養2学年芸術・文化 2C



元気 勇気 やる気で再び青春真っ只中！

専門1 学年健康・福祉 3A



みんなが主役 ヒーローとヒロインが一杯

専門1 学年郷土・生活 3B



豊富な知識の底力 郷土を愛するシャイな魅力



専門2学年郷土・生活 4B



野山に笑顔が満ち仲間たちの声も弾んだ日々

専門2学年芸術・文化 4C



いつでも明るく楽しい元気な和 和がクラス



研修1年 明るく、楽しく、3グループみんな一緒に！



Aクラス



Bクラス



Cクラス

研修2年

ふたたびの青春輝けみんな仲良し



Aクラス



Bクラス



Cクラス

ごあいさつ

郡山市あさかの学園大学
学長 富田孝志 … 16

ご祝辞

郡山市長 品川万里 … 17

社会福祉法人郡山市社会福祉事業団
理事長 影山敏夫 … 18

郡山市あさかの学園大学
副学長 内藤清吾 … 19

元郡山女子大学短期大学部教授
國馬善郎 … 20

福島県司法書士会名誉会長
司法書士 満井紀勝 … 21

郡山市あさかの学園大学の概要

設置者、組織など … 23

沿革 … 25

歴代運営委員 … 27

歴代事務局職員 … 30

歴代職員の追想 … 31

学生数の推移 … 38

地域別学生数 … 40

学生年齢構成 … 42

学園行事

入学式 … 44

健康づくり … 46

いきいきふれあいの集い … 50

学園祭 … 54

卒業式・修了式 … 72

高等学校教科書の掲載 … 77

郡山市あさかの学園大学開設要綱 78

永年功労の講師 … 80

学生会この10年

学生会長のことば … 84

学生会の経過 … 85

歴代学生会長の追想 … 86

学生会活動の概要

組織等 … 90

会報編集委員会の
10年間の活動 … 91

うねめ踊り実行委員会の
10年間の活動 … 96

施設訪問実行委員会の
10年間の活動 … 98

環境ボランティア実行委員会の
10年間の活動 … 101

レクリエーション実行委員会の
10年間の活動 … 104

16の愛好会
10年間の活動 … 106

郡山市あさかの学園大学
学生会会則 … 114

郡山市あさかの学園大学校歌 116

郡山市あさかの学園大学校旗 117

編集後記 … 118

記念誌作成委員会メンバー



郡山市あさかの学園大学 学長あいさつ

学長 富田 孝志

あさかの学園大学が創立30周年を迎えましたことは慶賀に堪えないところです。誠におめでとうございます。創立以来、深いご理解と温かいご支援を賜りました郡山市、社会福祉法人郡山市社会福祉事業団郡山市長寿社会振興センターはじめ関係機関、講師の皆様、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

本学園は、社会の急激な変化とともに人生80年時代を迎えるようになった30年前、生きがいを持ち、大いに社会参加していただくこと、希望する高齢者に系統的・継続的な学習と交流の場を提供するため、郡山市により設置されました。ご案内のように教養課程2年、専門課程2年の4年の教育課程が整備されています。また、希望者にはさらに2年間、研修生として学園利用を認めており、全てを合わせると、6年に及ぶ主体的な学習活動と学生会活動が可能なのです。高齢者の生涯学習を保障するとともに福祉を目的に、かつて全国的に創設された老人学級、高齢者大学等でしたが、現在、学生は単に受講するだけという所が多いようです。このような中で、創立30年を迎えたあさかの学園大学では、学生会が主体性を持ち、学習と各種行事が活発に行われています。当然のことながら、学生間の交流が活発となり、学生どうしの絆が強まり、互いに学園生活が生きがいとなり、ボランティア活動など社会貢献も数多く行われるようになっていきます。

このような成果を得るに至った背景には、郡山市はじめ関係者の皆様と、これまでの講師の皆様のお力添え、創立以来、学園運営の中核をなして来た学生会の活発な自主的、主体的活動があります。学園創立間もなく学生会が創設されました。以来、事務局である郡山市長寿社会振興センターと学生会が一体となり、常に時代の流れに合う学園運営が模索され、それが実地に移されて来ました。共に学ぶことが出来、学生会活動が活発であるほど、学園生活は活気に満ち、楽しくなります。何と言いましても、学生会活動が大きな鍵であります。

2025年問題が言われます今、大切なことは、高齢者自身が出来る限り自立をして、健康で楽しく暮らし、高齢化社会を自ら乗り切る意欲を持つことであると思います。高齢になることは誰しも迎える道です。高齢になったことを憂えるより、健康を保ち、互いに知恵を出し合い協力し、自分達が得て来たものを若い世代に繋ぐなど、少しでも社会の役に立つことであると思います。それが生きがいとなり喜びとなります。

そのためにも、身体を動かすことを厭わず、学習し、見聞を広める。その砦であるあさかの学園大学をさらにしっかりと確立する。30周年を機に、学生一人一人がこのような思いを持ち、心一つにして学園生活を送ることが、明日のあさかの学園大学を創って行くものと確信します。あさかの学園大学と学生会のさらなる発展を心より念願する次第です。



ご 祝 辞

郡山市長 品川 萬里

郡山市あさかの学園大学の創立30周年にあたり、一言、ごあいさつを申し上げます。

「あさかの学園大学」は、高齢者の皆様が御学友の皆さんとともに、系統的かつ継続的な学習ができる場として昭和63年4月に郡山市総合福祉センターにおいて開校、平成13年には現在のビッグアイへ学習の場を移し、以来平成28年度までに延べ6,861名の方が学ばれ、卒業後も様々な分野にわたり地域において御活躍されております。この間、平成4年には、卒業生が自主的に学ばれる場として研修クラブを開設、平成6年には学生会を組織され、うねめまつり踊り流しへの参加や、福祉施設におけるボランティア活動など積極的に自己啓発に努められ、地域貢献されていることは大変喜ばしいことであり、心から敬意を表する次第であります。

また、今年度の高等学校家庭科用教科書には、地域で行われている高齢者の活動事例として紹介され、県内はもとより全国に誇れる高齢者大学として定着し、各界から高い評価を頂いていることは、誠に誇らしい限りであります。

高齢化や人口減少が進行する中、国においてはこれまでの「支え手側」と「受け手側」に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合い、助け合いながら暮らすことができる地域共生社会の実現を目指しており、意欲と能力のある高齢者の方には社会の支え手として御活躍いただくことも求められておりますことから、本学園で学ばれる皆様が、身につけた知識を存分に活かされ、地域社会においてますます重要な役割を担われますことを心から御期待申し上げます。

本市におきましても、地域、暮らし、生きがいを共に創り高め合い、高齢者も若い方も、障がいのある方もない方も、男性も女性もすべての方が家庭、学校、職場、地域などあらゆる場所で持てる力を発揮でき、存分に活動できる「市民総活躍 こおりやま」の実現を目指し、地域包括ケアシステムの充実やロコモ予防等による健康寿命延伸の推進、セーフコミュニティ国際認証取得など、各種施策を積極的に展開してまいりますので、皆様におかれましては、今後とも変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

在校生及び卒業生の皆様におかれましては、このたびの30周年を契機といたしまして、今年度の学園祭のテーマである「出逢いし友と学ぶ喜び あさかの学園30年」にありますように学園生活で得られる知識や人とのつながりを大切にしていただき、健やかで充実した人生を送っていただきたいと存じます。

結びに、郡山市あさかの学園大学の益々の御発展と、大学の運営に御尽力いただきました関係各位の御健勝、御活躍を心から御祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



ご 祝 辞

社会福祉法人郡山市社会福祉事業団

理事長 影 山 敏 夫

郡山市あさかの学園大学創立30周年、誠におめでとうございます。

また、創立30年記念誌が発刊されますことを心からお喜び申し上げます。

あさかの学園大学は、昭和63年4月に、高齢者の生活の変化や現代社会に即応した感覚や暮らし方を確保するために、高齢者を対象として系統的・継続的な学習ができる高齢者大学として開設されました。

今日までの30年の間に、あさかの学園大学から約7千名の高齢者が卒業されて、学園で学んだことを活かして、趣味活動や社会参加による生きがいを持って、地域で元気に活躍をしておられます。

これもひとえに、向学心に燃えて一生懸命に学ぼうとする学生の皆様の熱意とその期待に応えてこられた講師の方々のご指導、更には充実した学園生活ができるように積極的にご提言をいただきました運営委員の皆様の御尽力の賜物と、改めて敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

あさかの学園大学では、学園での学習と日常生活での自己研鑽の成果を活かして、様々なところで活躍しておりますが、中でも、郡山市あさかの学園大学合唱団「ビビッドコーラス」は、多方面で元気な歌声をお聞かせいただいております。第16回郡山市社会福祉大会のオープニングセレモニーでは、素晴らしい歌声を披露されて盛大な拍手を受けられた際は、関係者の一人として大変うれしい思いをいたしました。

さて、我が国は、世界でも前例のない速さで高齢化が進み、2025年以降には4名に1人が75歳以上になり、多くの方が「人生90年」を生きる超高齢社会を迎えます。

あさかの学園大学が開設された当時は、社会や若者に支えられる高齢者というイメージでありましたが、今後、さらに進む超高齢社会では、元気な高齢者が元気でない高齢者を支えることが求められますので、学園で学んだことをこれからの人生に活かし、家庭や地域社会のために、健康で元気に活動する高齢者となれるように頑張ってくださいと思います。

結びに、この記念誌の発刊に際して、郡山市あさかの学園大学創立30周年記念学園祭実行委員会の皆様方のご尽力に感謝いたしますとともに、郡山市あさかの学園大学が30周年の節目を契機に、超高齢社会という大きな社会の変化に適切に対応し、活力と魅力あふれる高齢者の学び舎として、新しい時代に向け、更なる飛躍を遂げられますよう祈念いたしまして、ご挨拶といたします。



ご 祝 辞

郡山市あさかの学園大学

副学長 内 藤 清 吾

30周年を迎えたあさかの学園大学、受講生の皆様と運営スタッフの皆様にご心よりの敬意と謝意をお贈りしたいと思います。

いわゆる高齢者大学である「あさかの学園大学」に対して予備知識の無いままに副学長を拝命した私はいくつかのイベントに参加をして驚いたことがあります。それは、参加している皆さんの笑顔が若々しく、そしてその熱意はまさに青春時代そのまま若者にも負けていなかったからです。私の持っていたイメージは一掃されました（どんなイメージだったかは敢て言及しませんが…（笑））。少なくとも私より同年代以上の皆さんが若々しいのには驚きました。最近では皆さんのあふれ出るエネルギーをいただいて私自身もこれから「何か新しいことに挑戦したい」と思っている次第です。

そして運営スタッフの皆さんも大変な努力を続けてきたからこそ30周年を迎えることが出来たことは間違いありません。カリキュラムの検討から講師の選定、そして運営・管理…等々、それを教養課程2年間と専門課程2年の合計4年間、総勢500名弱の受講生に対して提供するわけですから大変です。日々これ改善の意識無くしては30周年を迎えることは出来なかったのではないのでしょうか。歴代スタッフの皆様にご感謝申し上げます。

今私はあさかの学園大学が当地郡山市にあることを誇りに思っています。震災以後若者人口が減少して高齢化社会が危惧される福島県ですが、学生の皆さんを見ると「熱意を結集すれば高齢化社会も怖くない」と思えてきます。あさかの学園大学が地域のコミュニティの中心として、これからも郡山の未来に若者と共に活躍されることを祈念して30周年の祝辞とさせていただきます。



青春ふたたびの学園生活

元郡山女子大学短期大学部教授

國馬善郎

昭和63年の開校から現在まで30年間も「健康・体力づくり、余暇活動、日常の安全生活、ボランティア運動」などについて、年齢の近い学生の皆さんに慕われて授業ができたこと嬉しい限りです。退職後、または家事のゆとりからさらに教養を高め、趣味や仲間づくりのために熱心な学ぶ姿に驚き、当初の老人大学名が改名され、2年間の修業期間・教養課程を専門課程2年と延長し、さらに同窓生の学習意欲にこたえて研修クラブが生まれて、行政の運営支援も増進されました。学科と学生増に加えて郡山市総合福祉センターから郡山駅前の便利なビッグアイへ教場が移りました。

市民に対する生涯学習の人気は高く、東日本大地震年は入学者数減とはいえ、毎年入学希望者が多く、平成になってからは県長寿社会推進機構の後援で、いわき、会津若松の高齢者学級と県内三シニア大学交歓会が開催されたり、そのうちに自主的な学生会が発足し、学園にふさわしい校歌、校旗が制定され、趣味の文化・運動クラブ活動、健康づくり、学園祭、研修旅行、学科の親睦会、地域の郡山うねめ祭りの参加、社会福祉施設ボランティア活動や入学式、卒業式等々、まるで往年の学窓時代そっくりの青春を謳歌する内容は、若者に負けない旺盛な意欲を感じます。特に「健康づくり」における学科生の仲間意識はアイデア溢れる鉢巻や服装に手づくりのたれ幕、そして元気はつらつの応援団長の威勢に圧倒されます。学園祭は自主的な運営でプロ級の作品の展示物が多くの見学者を魅了しています。授業態度も模範的であり、気持ち良い授業前後の全員あいさつ、机上にペットボトルもなく、熱心に聴く態度と質問攻めには感心させられ、まじめで素晴らしいです。

また、街中で卒業生から「在学時は大変お世話になりました」と声をかけられることも多く、元気な笑顔のあいさつが嬉しいです。

「あさかの学園大学」の特性としての気風を感じる事がいくつかあります。

- ①専攻する学科は学習する教養を高めるための意欲が旺盛であり、学生同士が仲良く、睦まじく協力し合って行動している。
- ②天候に左右されずに、授業を元気に興味深く、楽しみに、欠席の皆無に努力している。
- ③地域社会の行事や奉仕活動に、積極的に参加し、郷土を愛している。
- ④郡山市内外から専門分野で活躍している一流講師の授業が最高である。
- ⑤学生生活をお世話する元学校長の学科担当職員の先生や全職員が、丁寧に、優しく、学生に接していることがすばらしい、など。

先輩たちによる長年の実績による高齢者のための生涯学習の場であるこのような学園を全国にも広め、そして郡山の文化遺産として、郡山市のさらなる支援を仰ぎながら、高齢者が益々増加する時代の今後も継続発展するように熱望します。東京“オリ・パラ2020”を夢見て、30周年から未来へと飛躍しましょう。



あさかの学園大学の講師を務めて

福島県司法書士会名誉会長

司法書士 満井紀勝

【はじまり（講師依頼）】

元号が平成になった年、突然、「満井君かい。いっちゅうく一中」のあづまだよ。覚えてるかい。」と電話があった。

一中とは郡山市立第一中学校で、私が卒業したのは昭和30年3月、34年前である。にも拘わらずその瞬間、いまでも不思議に思うが柔和な吾妻和郎先生のお顔が浮かんできた。

「君に頼みたいことがある。あさかの学園大学の講師をしてれないか。」、とのことで事務局にお伺いし、30年振りにお会いした。

「あさかの学園大学」の何たることも知らなかったが、私はその時まで、公民館の高齢者学級、婦人学級や青年学級などで講師を経験していたので、先生にそのことを申し上げてご理解を頂き、講師を務めることを名誉と思いお引き受けした。

私の初年度は大学2年目の平成2年、私の年齢は50歳であった。

【授業科目の名称と内容】

私の担当は教養課程1年と2年である。

職業柄タイトルは「身近な法律」とし、1年2年セットのメニュー構成。

内容は1年で「親族」、2年で「相続」とした。

レジュメは当初に作成したものを29年間踏襲している。

法律を講義のベースとするのは当然であるが、「法律は常識の延長線上にある。」と、「歌は世につれ、世は歌につれ。」を例えとして「法律は世につれ、世は法律につれ。」の考えを述べて、基本項目を変えずその時々々の時局をテーマにすることを心がけた。

もう一つ、私は講義スタイルで話す、講義中「質問」の形式で学生さん達に問いかけ、考え方や意見をお聞きする。

その反応や答えを自分なりに解釈し論評するのも楽しみの一つで、自分の勉強にもなっている。

テーマは、「特別養子」、「夫婦別姓」、「臓器移植・脳死判定」、「同姓婚」、「18歳選挙権と成年年齢」、「天皇制特例法」などなどであるが、学生さん達の反応、答えは年々微妙に変わって来ている。

変化の要因の一つは29年の年月の間の学生さん達の年代差である、と感じている。

その二は、平成時代の日本そして世界の劇的ともいえる、政治経済社会の大きな変動に起因すると思う。

「学園」というごく小さい世界ながら、学生さん達の反応は世相を反映しているといえ、振り返ってみると、この変化は実に興味深い。

【学生さんのこと】

大学の資料により計算すると、2年目から30年目までの学生さんの数は大凡3,700名であり、私はその方々と触れ合ったことになる。

その中には、私の友人知人やそのご家族などもおられ、面映ゆいことも少なからずあった。

自分の年齢と学生さんの年齢の相対性について。学生さんの平均年齢は60代後半として、おそらく30年間変わらないと思う。

一方私はというと、歳を重ねる。当初は、お兄さんお姉さんだった学生さんは、やがて同年代になり、いまや後輩となった。

講義は同じテーマながら、説明内容や姿勢に微妙な変化が生じることになる。

29年間、学園講師という立場で明るく向上心溢れた素晴らしい方々と触れ合うことが出来たことは、私の人生で大きな財産となりつつある。

関係のみなさまに感謝申し上げます。

【あさかの学園大学のこれから】

講師をお引き受けした時、「大学」がこのような大きなスケールに成長することは想像出来なかった。

郡山市行政の制度設計、運営スタッフやお世話下さる先生方の熱意とご苦労は大変のものと拝察し市民の一人として敬意を表したい。

それにもまして、充実隆盛の最大の要因は、意欲溢れる（郡山市の）市民意識であり、すなわち学生さん達の熱心さと思う。

年々の応募者数、学園生活のエンジョイのし方と有効活用、社会に目を向けた活動など、その質と量の大きさは、全国に例を見ない。

大学がいつまでも継続し、ますます発展することを祈念し期待します。

郡山市あさかの学園大学の概要

1 設置者、組織など

1 設置者

郡山市

2 設置の目的

今日の急激に変化する社会情勢とともにもたらされた人生80年時代は、文化的かつ教養志向の高い、健康で意欲的な高齢者が見込まれている。

したがって、これからの高齢者の生活の変化や現代社会に即応した感覚や暮らし方を学ぶため、高齢者を対象とした系統的・継続的な学習ができる高齢者大学を設置し、高齢者の生きがいを高め、社会参加の契機とする。

3 名称

郡山市あさかの学園大学

4 所在地

郡山市駅前二丁目11番1号 事務局 郡山市長寿社会振興センター内
(ビッグアイ 7階 ☎024-924-2957)

5 事業の実施

社会福祉法人郡山市社会福祉事業団が、郡山市より郡山市あさかの学園大学の運営業務に関し委託を受け、運営にあたる。

(1)入学等

①教養課程

- ・資格：60歳以上の郡山市民
- ・申し込み：入学願書を学長に提出する
- ・学科：健康・福祉、郷土・生活、芸術・文化の3学科とする
- ・定員：各学科とも概ね60名とする
- ・修業年限：各学科とも2年間

②専門課程

- ・資格：郡山市あさかの学園大学の教養課程を卒業した者
- ・申し込み：入学願書を学長に提出する
- ・学科：健康・福祉、郷土・生活、芸術・文化の3学科とする
- ・定員：各学科とも概ね50名とする
- ・修業年限：各学科とも2年間

③研修クラブ

本学園大学で学んだことをもとに、共通の目的をもって、実践活動などを通して自主的研修を行う。

- ・資格：郡山市あさかの学園大学を卒業した者

(2) 授業料等 (年額)

- ・ 教養課程：15,000円
 - ・ 専門課程：20,000円
- (見学費・教材費・傷害保険料等は学生の負担とする。)

(3) 運営委員会

郡山市あさかの学園大学の運営は、運営委員会の審議に基づいて行う。

委員は、学長・副学長・学生の代表・その他学長の指名する者で構成する。

(4) 学習内容編成委員会

委員は、有識者等で構成し、学習計画を作成する。

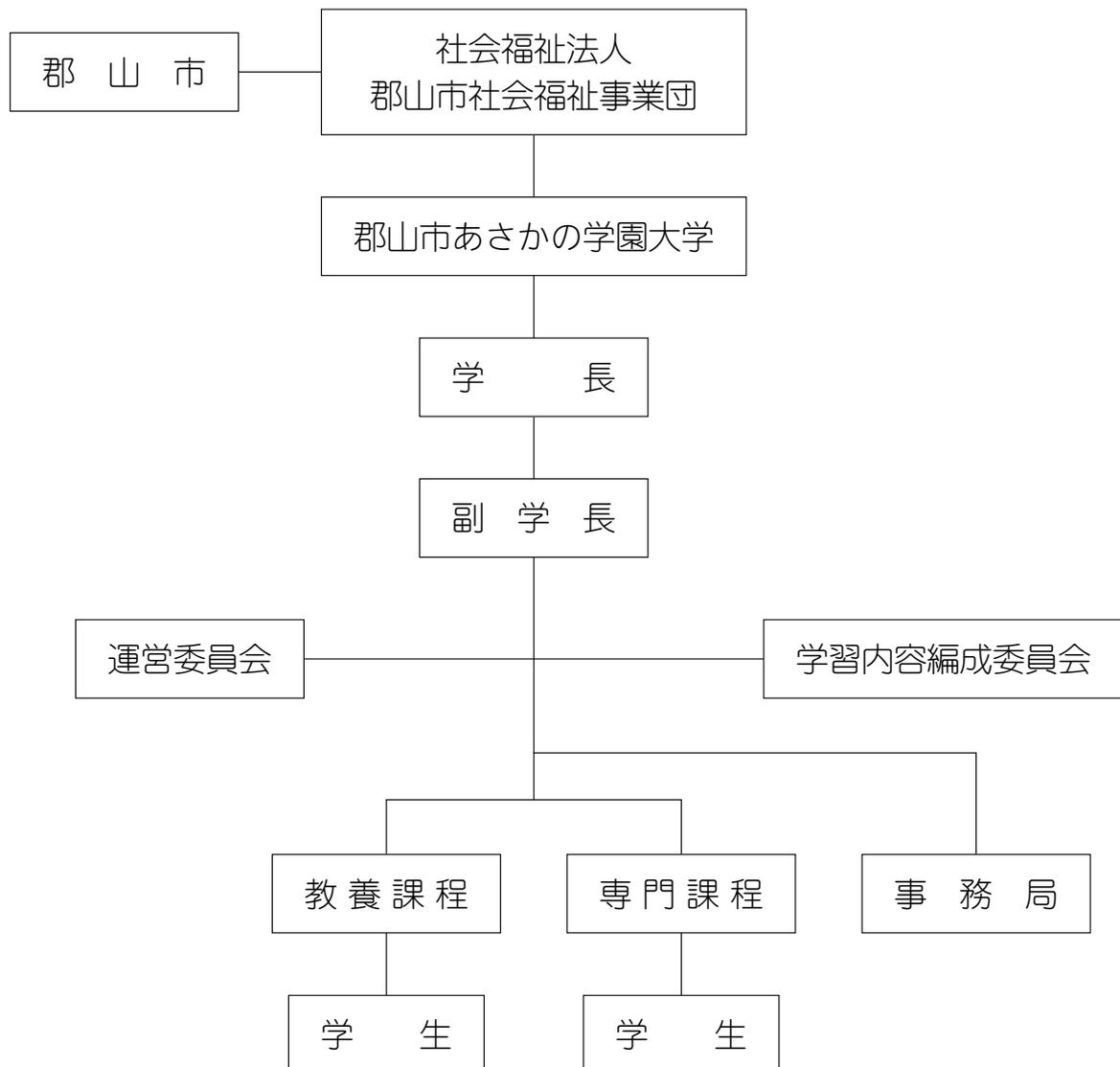
(5) 講師

郡山市内外各大学教授、医師、有識者等に依頼する。

(6) 教室

ビッグアイ 7階 他

(7) 組織機構





2 沿革

昭和61年10月	郡山市老人大学設置懇話会を設置
昭和62年 7月	老人大学設置に関する最終答申が懇話会よりなされる
昭和62年11月	老人大学名称公募審査会で「あさかの学園」を選定する
昭和63年 3月	財団法人郡山市高齢化社会振興会設立
昭和63年 3月	郡山市あさかの学園大学の業務を受託
昭和63年 4月	開校・入学式（4月12日）
平成 元年 8月	校章制定
平成 2年 3月	平成元年度卒業式（教養課程第1期、185人）
平成 2年 4月	専攻科（専門課程）開設
平成 2年 8月	専攻科の地域活動コースが財団法人福島県長寿社会推進機構と共催となる
平成 3年 3月	平成2年度卒業式（教養課程第2期、136人）
平成 3年 4月	本学園全課程が財団法人福島県長寿社会推進機構と共催になる
平成 4年 3月	平成3年度卒業式 （教養課程第3期、148人、専攻課程第1期、96人）
平成 4年 4月	研修クラブ開設
平成 4年 4月	本年度入学生から課程名、学科名、コース名変更（教養課程1年、専攻課程1年から）
平成 4年10月	「開校5周年記念学園祭」
平成 5年 3月	平成4年度卒業式 （教養課程第4期、118人、専攻課程第2期、80人）
平成 6年 3月	郡山市あさかの学園大学学生会発足
平成 6年 3月	平成5年度卒業式 （教養課程第5期、155人、専攻課程第3期、113人）
平成 7年 3月	平成6年度卒業式 （教養課程第6期、131人、専攻課程第4期、77人）
平成 8年 3月	平成7年度卒業式 （教養課程第7期、123人、専攻課程第5期、120人）
平成 9年 3月	郡山市あさかの学園大学校歌「青春ふたたび」制定
平成 9年 3月	平成8年度卒業式 （教養課程第8期、137人、専攻課程第6期、100人）
平成 9年10月	郡山市あさかの学園大学校旗制定
平成10年 3月	平成9年度卒業式 （教養課程第9期、135人、専攻課程第7期、96人）
平成11年 3月	平成10年度卒業式 （教養課程第10期、127人、専攻課程第8期、111人）
平成12年 3月	平成11年度卒業式 （教養課程第11期、136人、専攻課程第9期、110人）
平成13年 3月	平成12年度卒業式 （教養課程第12期、132人、専攻課程第10期、110人）
平成13年 4月	ビッグアイ 7階へ移転、学生証の発行
平成13年 4月	開設要綱の改正により、課程名、学科名等変更

平成14年	3月	平成13年度卒業式 (教養課程第13期、139人、専門課程第11期、111人)
平成14年	4月	研修クラブ生の身分証明書の発行
平成15年	3月	平成14年度卒業式 (教養課程第14期、144人、専門課程第12期、117人)
平成15年	4月	授業料改訂 (教養課程1年10,000円、専門課程1年15,000円)
平成15年	4月	現地学習バス代2分の1公費負担に増額
平成16年	1月	学生募集優先内定制実施
平成16年	3月	平成15年度卒業式 (教養課程第15期、148人、専門課程第13期、118人)
平成16年	4月	授業料改訂 (教養課程1年15,000円、専門課程1年20,000円)
平成17年	3月	平成16年度卒業式 (教養課程第16期、149人、専門課程第14期、134人)
平成17年	4月	郡山市財団等外郭団体改革推進指針に基づき、社会福祉法人郡山市社会福祉事業団に統合
平成18年	1月	募集定員の増(教養課程、専門課程各学科10人)
平成18年	3月	平成17年度卒業式 (教養課程第17期、148人、専門課程第15期、130人)
平成19年	3月	平成18年度卒業式 (教養課程第18期、155人、専門課程第16期、133人)
平成19年	11月	創立20周年記念学園祭
平成20年	3月	平成19年度卒業式 (教養課程第19期、162人、専門課程第17期、134人)
平成21年	3月	平成20年度卒業式 (教養課程第20期、159人、専門課程第18期、134人)
平成22年	3月	平成21年度卒業式 (教養課程第21期、154人、専門課程第19期、136人)
平成23年	3月	東日本大震災発生
平成23年	3月	平成22年度卒業式 (教養課程第22期、137人、専門課程第20期、137人)
平成24年	3月	平成23年度卒業式 (教養課程第23期、129人、専門課程第21期、133人)
平成25年	3月	平成24年度卒業式 (教養課程第24期、107人、専門課程第22期、115人)
平成26年	3月	平成25年度卒業式 (教養課程第25期、125人、専門課程第23期、116人)
平成27年	3月	平成26年度卒業式 (教養課程第26期、127人、専門課程第24期、88人)
平成28年	3月	平成27年度卒業式 (教養課程第27期、124人、専門課程第25期、114人)
平成29年	3月	平成28年度卒業式 (教養課程第28期、125人、専門課程第26期、102人)



3 歴代運営委員

☆郡山市あさかの学園大学の運営は、運営委員会の審議に基づいて行う。

委員は、学長・副学長・社会福祉法人福島県社会福祉協議会の代表・学生の代表
・その他学長の指名する者で構成する。

年度	学長・副学長	学生会代表	学長の指名する者（職）
平成20年	【学 長】 原 正夫 （郡山市長） 【副学長】 丹治 一郎 （財団法人郡山市高齢 化社会振興会副理事長）	《教養1年》 横田 忠義 《教養2年》 濱尾 直美 《専攻1年》 小幡 弘 《専攻2年》 川嶋 公平	伊藤 幹夫 （福島民報社常務取締役郡山本社代表） 佐藤 喜平（福島民友新聞社郡山総支社長） 永塚 功（元日本大学教授） 斉藤 洋子（元郡山女子大学教授） 久保田 敦（郡山市老人クラブ連合会会長） 瀬谷 俊雄 （社会福祉法人福島県社会福祉協議会会長）
平成21年	【学 長】 原 正夫 （郡山市長） 【副学長】 丹治 一郎 （財団法人郡山市高齢 化社会振興会副理事長）	《教養1年》 箭内 喜訓 《教養2年》 横田 忠義 《専攻1年》 濱尾 直美 《専攻2年》 小幡 弘	伊藤 幹夫 （福島民報社常務取締役郡山本社代表） 柳沼 幸男（福島民友新聞社郡山総支社長） 永塚 功（元日本大学教授） 斉藤 洋子（元郡山女子大学教授） 久保田 敦（郡山市老人クラブ連合会会長） 瀬谷 俊雄 （社会福祉法人福島県社会福祉協議会会長）
平成22年	【学 長】 原 正夫 （郡山市長） 【副学長】 丹治 一郎 （財団法人郡山市高齢 化社会振興会副理事長）	《教養1年》 芳賀 征満 《教養2年》 箭内 喜訓 《専攻1年》 横田 忠義 《専攻2年》 濱尾 直美	伊藤 幹夫 （福島民報社常務取締役郡山本社代表） 柳沼 幸男（福島民友新聞社郡山総支社長） 永塚 功（元日本大学教授） 斉藤 洋子（元郡山女子大学教授） 久保田 敦（郡山市老人クラブ連合会会長） 瀬谷 俊雄 （社会福祉法人福島県社会福祉協議会会長）

年度	学長・副学長	学生会代表	学長の指名する者（職）
平成23年	【学長】 原 正夫 （郡山市長） 【副学長】 丹治 一郎 （財団法人郡山市高齢化社会振興会副理事長）	《教養1年》 清水 利昭 《教養2年》 芳賀 征満 《専門1年》 箭内 喜訓 《専門2年》 横田 忠義	伊藤 幹夫 （福島民報社常務取締役郡山本社代表） 柳沼 幸男（福島民友新聞社郡山総支社長） 永塚 功（元日本大学教授） 斉藤 洋子（元郡山女子大学教授） 西間木嘉瑞（郡山市老人クラブ連合会会長） 瀬谷 俊雄 （社会福祉法人福島県社会福祉協議会会長）
平成24年	【学長】 原 正夫 （郡山市長） 【副学長】 丹治 一郎 （財団法人郡山市高齢化社会振興会副理事長）	《教養1年》 仲島 弘昭 《教養2年》 清水 利昭 《専門1年》 青山 功 《専門2年》 箭内 喜訓	浜津三千雄 （福島民報社常務取締役郡山本社代表） 柳沼 幸男（福島民友新聞社郡山総支社長） 永塚 功（元日本大学教授） 斉藤 洋子（元郡山女子大学教授） 西間木嘉瑞（郡山市老人クラブ連合会会長） 瀬谷 俊雄 （社会福祉法人福島県社会福祉協議会会長）
平成25年	【学長】 品川 萬里 （郡山市長） 【副学長】 丹治 一郎 （財団法人郡山市高齢化社会振興会副理事長）	《教養1年》 八代 一郎 《教養2年》 仲島 弘昭 《専門1年》 清水 利昭 《専門2年》 青山 功	半野 秀一 （福島民報社常務取締役郡山本社代表） 松原 正明（福島民友新聞社郡山総支社長） 永塚 功（元日本大学教授） 高橋 京子（福島県看護協会会長） 西間木嘉瑞（郡山市老人クラブ連合会会長）
平成26年	【学長】 富田 孝志 （福島大学経営協議会委員） 【副学長】 内藤 清吾 （郡山商工会議所副会頭）	《教養1年》 佐田 一志 《教養2年》 八代 一郎 《専門1年》 仲島 弘昭 《専門2年》 清水 利昭	佐藤 光俊 （福島民報社常務取締役郡山本社代表） 松原 正明（福島民友新聞社郡山総支社長） 高橋 京子（福島県看護協会会長） 西間木嘉瑞（郡山市老人クラブ連合会会長）



年度	学長・副学長	学生会代表	学長の指名する者（職）
平成27年	【学長】 富田 孝志 （福島大学経営協議会委員） 【副学長】 内藤 清吾 （郡山商工会議所副会頭）	《教養1年》 宗像 英夫 《教養2年》 佐田 一志 《専門1年》 渡辺 秀夫 《専門2年》 仲島 弘昭	佐藤 光俊 （福島民報社常務取締役郡山本社代表） 松原 正明（福島民友新聞社郡山総支社長） 高橋 京子（福島県看護協会会長）
平成28年	【学長】 富田 孝志 （福島大学経営協議会委員） 【副学長】 内藤 清吾 （郡山商工会議所副会頭）	《教養1年》 星 武彦 《教養2年》 宗像 英夫 《専門1年》 佐田 一志 《専門2年》 渡辺 秀夫	佐藤 研一 （福島民報社取締役郡山本社代表） 菅野 篤 （福島民友新聞社取締役郡山総支社長） 高橋 京子（福島県看護協会会長）
平成29年	【学長】 富田 孝志 （福島大学経営協議会委員） 【副学長】 内藤 清吾 （株式会社内藤工業所会長）	《教養1年》 大原 秀一 《教養2年》 黒田 康雄 《専門1年》 石本 信孝 《専門2年》 佐田 一志	佐藤 研一 （福島民報社取締役郡山本社代表） 菅野 篤 （福島民友新聞社取締役郡山総支社長） 今野 静（福島県看護協会会長）

4 事務局職員

役職名	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
学 長	原 正夫				
副学長	丹治 一郎				
所 長	小林 義美	清水 宣雄	清水 宣雄	大越 則夫	樋口 功
事務局員	菅野 富博	田部 瑞雄	緑川 真吉	矢吹 保男	宇佐美秀昭
	矢吹 保男	菅野 富博	田部 瑞雄	緑川 真吉	須賀 彰廣
	片野 昌一	矢吹 保男	菅野 富博	増子 敏夫	緑川 真吉
	成田 努	片野 昌一	矢吹 保男	菅野 富博	金子 啓男
事務員	田部 瑞雄	緑川 真吉	増子 敏夫	仲田 一	箭内 善信
	桑名 優子	桑名 優子	高田 洋乃	高田 洋乃	高田 洋乃
	岩野 園未	渡辺 純子	渡辺 純子	渡部 美穂	吉田はるか

役職名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学 長	品川 萬里	富田 孝志	富田 孝志	富田 孝志	富田 孝志
副学長	丹治 一郎	内藤 清吾	内藤 清吾	内藤 清吾	内藤 清吾
所 長	樋口 功	鈴木 茂清	鈴木 茂清	深谷 仁	深谷 仁
事務局員	金子 啓男	渡部 博志	渡部 博志	渡部 博志	橋本 金市
	宇佐美秀昭	金子 啓男	渡邊 晋一	渡邊 晋一	鈴木ヨシ子
	須賀 彰廣	宇佐美秀昭	渡邊 勲	渡邊 勲	車田 輝治
	箭内 善信	箭内 善信	丹伊田 実	丹伊田 実	小林 希一
事務員	酒井真知子	酒井真知子	高田 洋乃	橋本 金市	清水 正
	高田 洋乃	高田 洋乃	塩田 陽子	高田 洋乃	高田 洋乃
	吉田はるか	塩田 陽子	猪俣 好美	塩田 陽子	塩田 陽子



郡山市あさかの学園大学の職員

上段左より 塩田陽子、清水 正、高田洋乃

下段左より 橋本金市、鈴木ヨシ子、深谷 仁、車田輝治、小林希一

5 歴代職員の追想



郡山市あさかの学園大学 創立30周年を迎えて

平成28・29年度所長 深谷 仁

郡山市あさかの学園大学の創立30周年にあたり、本大学の歴史を振り返ってみたいと思います。

本大学は、郡山市が設置者となり昭和63年4月に「郡山市あさかの学園老人大学」として開学し、平成元年から現在の校名になりました。

当時郡山市では、「人間尊重を基本とした人間が人間として生きがいのある、活力に満ちた、高度の近代福祉都市建設」を市政の中心に掲げ、目指すべき都市像を「近代福祉都市建設」と定めておりました。

その理念の下に、ハード面では、総合福祉センターや精神薄弱者授産施設「緑豊園」、同じく厚生施設の「花かつみ豊心園」、高齢者文化休養センター「逢瀬荘」の建設並びに各地域にはコミュニティーセンターなどの多くの福祉施設を建設しました。

一方、ソフト面のひとつとして「郡山市あさかの学園大学」を開設いたしました。

昭和61年から市内有識者等で構成する市長の諮問機関としての、老人大学設置懇話会から「高齢者を対象とした系統的・継続的な学習ができる高齢者大学を設置し、高齢者の生きがいを高め社会参加の契機とする。」との老人大学設置に関する答申がなされました。

さらに第三セクターの財団法人郡山市高齢化社会振興会を設立し、郡山市から委託を受け、この財団が、大学を運営することとなり、後に、現在の社会福祉法人郡山市社会福祉事業団に移行することになります。

また、開学に向けて大学の名称を公募し、選定しました。

当時の学生募集は、市内在住の満60歳以上の市民を対象に行い、3学科を設置し212名でスタートしました。

昭和63年の開校式は、郡山市中央図書館3階の視聴覚ホールで挙行し、開学当初の2年間は、郡山市民文化センターや中央公民館で、平成2年からは総合福祉センターで授業を行っていましたが、平成13年4月の郡山駅西口再開発ビル「ビッグアイ」の完成を期に駅前立地のターミナル性を生かし、遠方の学生が乗り換えなしに公共交通機関を利用して通いやすい交通至便の場所に大学を設置し16年を迎えました。

現在本大学は、大学・短大の教授等、医師、歯科医師、学識経験者、他に県職員、市職員など総勢117名の多彩な講師陣で今年度の年間講義を行っています。

本大学の歳時記を説明いたしますと、年間に5つの事業を実施しています。

春先4月には、「入学式、始業式」を文化センター中ホールにおいて学生全員参加で関係者を合わせ500名程度が集まり実施いたしました。

ここから新しい学生生活が始まることとなります。

9月には「健康づくり（運動会）」として学生全員及び卒業生合わせて530人が参加し、郡山総合体育館において実施しました。

クラスの対抗戦で、ボーリングのような競技や二人一組で物を運ぶゲームなど5つの種目で得点を競い、優勝、準優勝、3位までを表彰します。

10月には、「郡山市豊かな長寿社会『いきいきふれあいの集い』」を郡山市民文化センター大ホールで実施しました。

この事業の目的は、郡山市の「豊かな長寿社会を作るための具体的内容について、各世代各界より提言や実践発表及び記念公演をいただき全市民で考えていく契機とする。」というものです。

今回は、郡山市立郡山第四中学校3年生の生徒さんと郡山青年会議所の大槻俊介副理事長さんから提言を、近森歌謡ボランティアの皆さんには、施設を慰問するときに演奏する楽曲を活動事例の発表とともに演奏していただきました。

記念講演は同日に、俳優・気象予報士の石原良純さんから「石原良純大いに語る～気象・環境から家族の絆まで～」の演題での講話をいただき、学生と市民を合わせて1,200人ほどの皆さんが来場いたしました。

11月には、郡山市民文化センター大ホールで、「郡山市あさかの学園大学創立30周年記念学園祭」を実施し、本大学の講師を15年以上務めていただきました講師の先生33名にそのご功績と永年のご労苦に報いるため、富田孝志学長から感謝状を贈呈しました。

その後、学生がこの日のために熱心に練習を重ねていた歌や踊り、楽器演奏などをステージ発表し、約850人の市民の皆さんが来場しご覧になりました。

3月には、卒業式及び修了式を予定しています。

卒業は、教養課程及び専門課程の2年生。修了は、教養課程及び専門課程の1年生となります。

卒業生には、出席の状況に応じて、昨年の実績では、4年間無欠席の学長賞は10名、2年間無欠席の皆勤賞は21名、2年間9割出席の精勤賞は121名に賞を授与しました。

カリキュラム以外のサークル活動としては、ウォーキング・登山、ゴルフ、社交ダンス、日本舞踊、フラダンス、コーラス、俳句、川柳、写経など17の愛好会があり、多くの学生が所属し、学生相互の個性を相互理解し貴重な人間関係を結び、豊かな人間性に触れる場として大いに役立てております。

本大学の大きな特色として、学生会の存在があげられます。

本大学に在学する446名全員と卒業生研修クラブ生163名の計609名が学生会会則による、学生の自覚に基づき充実した学生生活を目指し、活動を通して相互の理解と信頼を深め、啓発と親睦を図るため組織するというものであります。

会長1名、副会長3名ほか8名の計12名の役員で構成し、内部には総務、会報

編集、うねめ踊り、環境ボランティア、レクリエーション、施設訪問の6つの実行委員会を有し、それぞれに委員長、副委員長、総務担当役員24人を置き、さらにこの実行委員の下に4学年12クラスと研修クラブ1と2にも同様に実行委員会の委員合わせて211名を置いて、強固な結束のもとに年間計画を立て主体性をもった活動を行っております。

この学生会は、郡山市あさかの学園大学の運営には大変重要な役割を担っていただいております、学生会なしでは本大学の運営を円滑に行うことはできません。

入学式・始業式、健康づくり、いきいきふれあいの集い、学園祭、卒業式・修了式の年間5大事業には、運営に関するご意見をいただきながら、行事の受付や司会、誘導案内などのご協力をいただいております、大学の運営委員会や学習内容検討委員会の委員に就任していただき、学生の立場から日頃感じている貴重なご意見とご提言をいただくとともに積極的に審議していただいております。

学生会自主事業の主なものとしては、湖南町布引高原での大根、ヒマワリの種まきとキャベツの苗植え、その収穫。

環境セミナーの開催、郡山駅西口駅前広場やフロンティア通り等の清掃活動、うねめ踊りへ参加し、今回は「商店街連合会会長賞」に輝きました。

レクリエーションとして、新潟県弥彦山、弥彦神社、燕三条刃物会館への日帰り旅行、施設訪問として、啓寿園やせいわ園など5つの特別養護老人ホームでの合唱やフラダンス、日本舞踊、ハーモニカ、尺八、演芸などを入所しているお年寄りに披露し喜ばれております。

このようにして本大学は、設立以来30年間、市当局並びに社会福祉法人郡山市社会福祉事業団等の関係機関のご指導のもと講師の先生のご尽力、学生会のご支援、事務局諸先輩のご努力のおかげをもちまして、全国にも誇れる高齢者大学として発展し、郡山市の次代に引き継ぐソフト面のレガシーと言っても過言ではないと考えております。

本大学をご存じない皆様には、少しいメージできたのではないかと思います。

日本は今、高齢者の総人口に占める割合が世界最高となり、人口減少と超高齢社会が進展しております。

このような中であって、60歳以上の郡山市民の皆様には、郡山市あさかの学園大学に入学していただきますと、新しい出会いと、楽しみ、喜びが待っています。

この文章をお読みいただいた皆様には、ご自身の入学はもとより、親類縁者、お友達、ご近所の方々へお伝え、お誘いをいただき、本大学への入学にお力添えを賜りますようお願い申し上げます、結びとさせていただきます。



郡山市あさかの学園大学の思い出

平成21・22年度所長 清水 宣 雄

郡山市あさかの学園大学創立30周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私があさかの学園大学の事務局に勤務したのは平成21年4月から平成23年3月までの2年間でした。

振り返ってみますと、その2年間の間には、様々な出来事がありましたが、何と言っても東日本大震災が一番の思い出です。

平成23年3月11日、その日はあさかの学園大学の卒業式の日でした。地震は、在校生代表が送辞を読み上げるために壇上への階段を上り始めた、まさにその時に始まりました。揺れがだんだんと大きくなってきたので式を中止し、文化センターの職員の方と協力して、学生さんや来賓の方には避難してもらいました。幸い一人の怪我人を出すこともなく済んだのは幸運だったと思います。

文化センターからビッグアイに戻る途中で見た民家の様子は、あの地震被害の凄まじさを物語っておりました。一方、事務局内部の被害が少なかったのは不幸中の幸いでした。

翌日、文化センターに置いたままになっていた卒業証書や修了証書などを受け取りに行きました。証書に降り積もった細かいコンクリートの粒や埃の多さに被害の大きさを実感し、一人の怪我人も出なかったことに、改めて安堵した次第でした。

その後文化センターは、大規模な修理のために長期の休館を余儀なくされました。次に、あさかの学園大学の性格を示したような話題を一つ。

それは新年度の学生募集を開始して間もなくのことでした。事務局に一本の電話がかかってきました。「4月から孫が小学校に入るが、趣味もなく近所付き合いもあまりなかったためにお友達がいません。こんな私でもあさかの学園大学に入学できますか。」という女性からの問い合わせでした。「もちろん大歓迎です。」と返事をしました。

その方は、入学式から三ヶ月ほど過ぎた頃には、友達と談笑しながら颯爽と歩くほど、大学に溶け込んでおられました。その姿に三ヶ月前の面影はなく、ただ驚くばかりでした。

この大学には、地域で役職を持って活躍している学生さんも多数在籍しておられますが、第二の人生の新たなスタートとして入学された方もおいでになるということを紹介した次第です。

最後になりますが、郡山市あさかの学園大学は県内はもとより全国的にも優れた生涯学習の場であります。

この素晴らしい大学が、今後とも益々充実発展されますよう心よりお祈り申し上げます。



青春の輝きを もう一度

平成23年度所長 大越 則夫

平成23年5月、あさかの学園大学の事務局を担当することになりました。その年は、決して忘れることができない出来事がありました。3月11日、これまで経験したことがない大きな揺れに見舞われ、郡山市内でもいろいろな被害が生じました。併せて、東京電力福島原発が津波によって崩壊し、大量の放射線が放出され、日常生活はもとより、社会に未曾有の被害が生じました。まさに、その日その時間帯には、市民文化センターであさかの学園大学の卒業式が行なわれている最中でした。

大震災によって、多くの市民が右往左往する中でも、当大学の学生は、気丈に対応されていたと聞いております。

あさかの学園大学は、昭和63年4月に開校して以来30年、多くの学生が教養課程と専門課程を通して熱心に授業に臨まれています。さらに、課外活動として、各地の名所旧跡を訪ねられ、郡山と違ったそれぞれの地域の特性や歴史などに触れるとともに、地域名産のさくらんぼをほお張りながら青春を思い出すなど満喫したバス旅行が行われました。

加えて、活発な学生活動を展開されてきました。こうした成果が如実に現れたことがありました。それは平成23年夏のうねめまつりに際しては、多くの学生が日々熱心に練習に励み、うねめ踊り流しの本番では、息の合ったすばらしい踊りを披露し、見事に最優秀の大賞を獲得されました。その成果を報告するため、横田学生会長と私で当時の副学長であり商工会議所会頭の故丹治一郎さんを訪ねたとき、お二人が満面の笑みを浮かべ、喜びを語り合ったことが思い出されます。

高齢者を対象とした学びの会は、各地で開設されていますが、あさかの学園大学は、さまざまな授業を聴き教養を身につけられるとともに、学生会が主体となり、自主性を持ちながら社会参加にも積極的に取り組むなど豊かで生きがいのある生活を送られています。このように活発な学生活動を続けていることは、全国的にも誇れる大学であると思います。こうした活動に敬意を表するとともに、今後とも充実した大学であることを期待しています。



生きがづくり

平成24・25年度所長 樋 口 功

今や日本人の平均寿命が延びて人生80年とも90年ともいわれるような長寿社会が一層進む中において、高齢者の方々の生きがづくりや健康づくりが喫緊の課題となっております。

このような時代的背景を踏まえ、あさかの学園大学は高齢者の生きがい対策の一つとして昭和63年4月に開校したところでありますが、この学園を30年前に創設したということは画期的なことであり、県下に誇れる高齢者向け大学といえるのではないかと考えております。

私が所長として就任したのは東日本大震災及び東京電力福島第一原発事故の1年後だったので、震災直後こそ学生の入学者数の減少や各種行事等の会場変更等を余儀なくされましたが、ほぼ計画どおりに事業を推進することができたものと考えております。これも学生の皆様が震災や原発事故に絶対に負けないという強い気持ちをもって学習に取り組まれた賜物といえるのではないのでしょうか。

あさかの学園大学のカリキュラムを編成するにあたっては、学習内容を現代社会に即応した内容となるよう心掛けて作成しておりました。例えば教養課程1年のカリキュラムに「認知症サポーター養成講座」の科目を新たに組み入れたわけですが、これは日本人の平均寿命が延びて世界有数の長寿国となった一方で、認知症を患う人が2025年には約700万人と12年の462万人から急増するとの見通しが厚生労働省から示されたところであります。このことから学園大学でこの養成講座を受講された高齢者が認知症サポーターとなって、認知症の人やその家族のよき理解者として支援できるような環境を作っていくことが、地域づくり、生きがづくりに繋がっていくのではないかとの思いから組み入れた経過があります。

あさかの学園大学には長寿社会を迎えて高齢者の生きがづくりや健康づくりに果たす役割はますます大きくなってまいります。今後とも学生の皆様が学園生活を通して、生きがいのある充実した人生を送っていただけるような環境を提供していただきたいと思います。



さらなる飛躍を祈念して

平成26・27年度所長 鈴木茂清

あさかの学園大学が創立30周年を迎えられましたこと、心からお喜び申し上げます。

私達職員は学生の皆様が笑顔で学び、仲間づくり、健康づくり、そして生きがいづくりのできる学園にしたいと願っておりました。

結果として学生会並びに学長、副学長及び関係者の皆様のご協力により、学園を大変円滑に運営できましたこと、また学生の皆様が学園で培った経験と知識を地域のために発揮されておりますこと、ここに改めて感謝申し上げます。

さて、本年は采女踊り流しの入賞誠にめでとうございます。学園のご活躍は絶えず注視している学園OBとしては大変うれしく思っております。

私は26・27年度の2年間の勤務でしたが、学園から実に多くのことを学ばせて頂きました。

百歳を超えられた講師先生の「生きることは燃えること。老いは人生総仕上げの時期。真っ赤に成熟した秋の柿こそ老いの理想の姿。これからも成熟に向かって努力する」との覚悟に触れ、百歳にしてなお精進する姿に感銘を受けました。

米寿を迎えられる新入生の前向きな生き方からは、「人生最上のものは過去ではなく、これから先にまだまだある」ということを痛烈に教わりました。

「現地学習会」の芭蕉ゆかりの地巡りや会津寺社巡りは、私を新天地に誘い、今も私の関心事の一つとなっております。

「いきいきふれあいの集い」は各界の有名人から成功に導いた人生訓を身近で聞ける貴重な機会でありました。

「学園祭」では、学生の皆様の練習の歌声が事務室に響いてきて、準備の段階から職員一同、大変楽しみにしていたことを思い出します。

「運動会」では、小道具のゴムボールや浮袋を膨らませることに苦労したことが懐かしく、クラス毎揃いのユニホームによる熱い応援合戦も忘れられません。本当にクラスメイトの絆が固く、その息の合った応援の姿は生涯の友を得た証でありました。

学生の皆様には「生涯現役」という言葉がとても似合っておりました。それは学生の皆様が学園から毎日元気を頂いていたからではないでしょうか。私もそうでした。学園には常に明るい前向きな気持ちが溢れており、元気が湧き出る泉のようでした。仲間に会い、そして、元気をもらって帰っていく。学園に来ることが「最高の健康法」だと私は感じていました。

このように思い出は尽きません。学園での経験は私の心の中に生涯変わらぬ濃い彩で残ることでしょう。

結びに、30周年を契機として、学園並びに学生会のさらなるご発展と関係者皆様のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます。

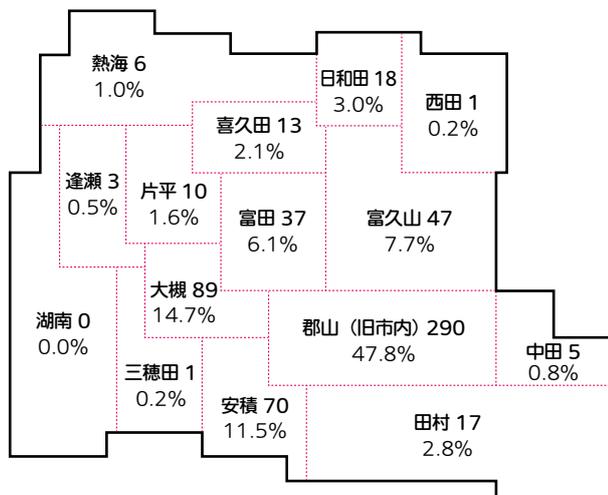
6 学生数の推移 (毎年5月1日現在 単位：人)

年度	課程	学年	健康・福祉			郷土・生活			芸術・文化			計			全体〔比〕		研修クラブ					
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	性別人数 (比)	総人数	年	男	女	計		
平成20年	教養	1年	13	41	54	24	30	54	14	42	56	51	113	164	男	208 34.3%	607	1	35	62	97	
		2年	14	36	50	27	31	58	13	40	53	54	107	161								
		計	27	77	104	51	61	112	27	82	109	105	220	325								
	専門	1年	14	33	47	24	27	51	12	36	48	50	96	146		女		399 65.7%	2	27	63	90
		2年	13	30	43	24	22	46	16	31	47	53	83	136								
		計	27	63	90	48	49	97	28	67	95	103	179	282								
平成21年	教養	1年	15	33	48	31	19	50	12	35	47	58	87	145	男	196 33.7%	581	1	36	66	102	
		2年	12	38	50	22	30	52	12	41	53	46	109	155								
		計	27	71	98	53	49	102	24	76	100	104	196	300								
	専門	1年	9	31	40	24	27	51	12	37	49	45	95	140	女	385 66.3%		2	24	68	92	
		2年	13	32	45	22	27	49	12	35	47	47	94	141								
		計	22	63	85	46	54	100	24	72	96	95	189	281								
平成22年	教養	1年	18	32	50	37	20	57	9	31	40	64	83	147	男	205 36.2%	566	1	38	78	116	
		2年	14	31	45	30	19	49	11	34	45	55	84	139								
		計	32	63	95	67	39	106	20	65	85	119	167	286								
	専門	1年	11	38	49	20	26	46	12	36	48	43	100	143	女	361 63.8%		2	33	67	100	
		2年	9	31	40	22	27	49	12	36	48	43	94	137								
		計	20	69	89	42	53	95	24	72	96	86	194	280								
平成23年	教養	1年	8	29	37	27	21	48	11	26	37	46	76	122	男	195 38.0%	514	1	33	78	111	
		2年	14	28	42	36	19	55	8	29	37	58	76	134								
		計	22	57	79	63	40	103	19	55	74	104	152	256								
	専門	1年	12	26	38	28	18	46	10	30	40	50	74	124	女	319 62.0%		2	38	76	114	
		2年	10	34	44	20	25	45	11	34	45	41	93	134								
		計	22	60	82	48	43	91	21	64	85	91	167	258								
平成24年	教養	1年	16	22	38	23	23	46	20	31	51	59	76	135	男	201 41.0%	485	1	34	82	116	
		2年	8	23	31	22	20	42	11	24	35	41	67	108								
		計	24	45	69	45	43	88	31	55	86	100	143	243								
	専門	1年	14	26	40	33	17	50	5	27	32	52	70	122	女	284 59.0%		2	34	74	108	
		2年	12	24	36	28	18	46	9	29	38	49	71	120								
		計	26	50	76	61	35	96	14	56	70	101	141	242								

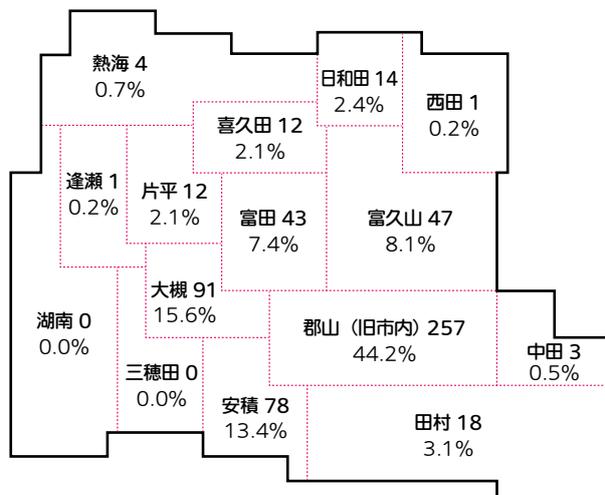


年度	課程	学年	健康・福祉			郷土・生活			芸術・文化			計			全体〔比〕		研修クラブ				
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	性別人数 (比)	総人数	年	男	女	計	
平成25年	教養	1年	19	28	47	23	31	54	18	26	44	60	85	145	男	200 42.0%	481	1	39	51	90
		2年	13	21	34	22	22	44	18	30	48	53	73	126							
		計	32	49	81	45	53	98	36	56	92	113	158	271							
	専門	1年	7	14	21	21	19	40	8	23	31	36	56	92	女	281 58.0%		2	29	78	107
		2年	14	24	38	31	17	48	6	26	32	51	67	118							
		計	21	38	59	52	36	88	14	49	63	87	123	210							
平成26年	教養	1年	14	26	40	27	23	50	11	30	41	52	79	131	男	188 40.0%	466	1	39	52	91
		2年	16	23	39	20	30	50	17	23	40	53	76	129							
		計	30	49	79	47	53	100	28	53	81	105	155	260							
	専門	1年	8	22	30	21	19	40	18	30	48	47	71	118	女	278 60.0%		2	38	50	88
		2年	7	13	20	21	17	38	8	22	30	36	52	88							
		計	15	35	50	42	36	78	26	52	78	83	123	206							
平成27年	教養	1年	13	24	37	26	23	49	16	34	50	55	81	136	男	198 41.0%	487	1	33	51	84
		2年	13	23	36	27	22	49	11	29	40	51	74	125							
		計	26	47	73	53	45	98	27	63	90	106	155	261							
	専門	1年	13	19	32	20	27	47	15	18	33	48	64	112	女	289 59.0%		2	37	52	89
		2年	6	21	27	20	19	39	18	30	48	44	70	114							
		計	19	40	59	40	46	86	33	48	81	92	134	226							
平成28年	教養	1年	9	27	36	28	19	47	19	26	45	56	72	128	男	198 42.0%	475	1	36	54	90
		2年	13	21	34	26	22	48	14	32	46	53	75	128							
		計	22	48	70	54	41	95	33	58	91	109	147	256							
	専門	1年	12	21	33	24	22	46	10	25	35	46	68	114	女	277 58.0%		2	32	49	81
		2年	11	19	30	20	26	46	12	17	29	43	62	105							
		計	23	40	63	44	48	92	22	42	64	89	130	219							
平成29年	教養	1年	10	22	32	34	16	50	10	29	39	54	67	121	男	192 43.0%	451	1	33	46	79
		2年	9	25	34	25	19	44	18	19	37	52	63	115							
		計	19	47	66	59	35	94	28	48	76	106	130	236							
	専門	1年	11	18	29	18	17	35	12	28	40	41	63	104	女	259 57.0%		2	35	50	85
		2年	12	21	33	23	21	44	10	24	34	45	66	111							
		計	23	39	62	41	38	79	22	52	74	86	129	215							

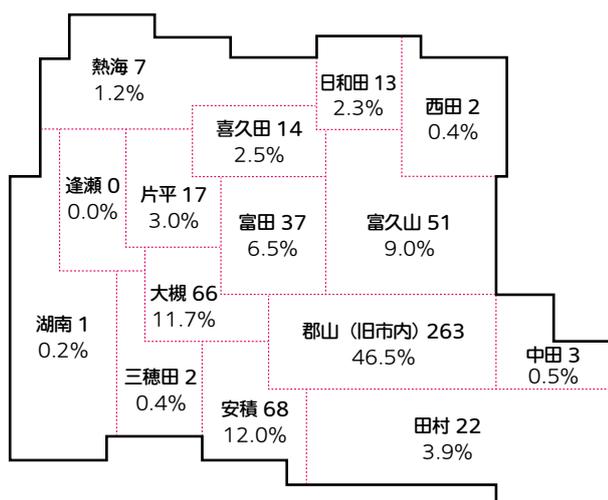
7 地域別学生数



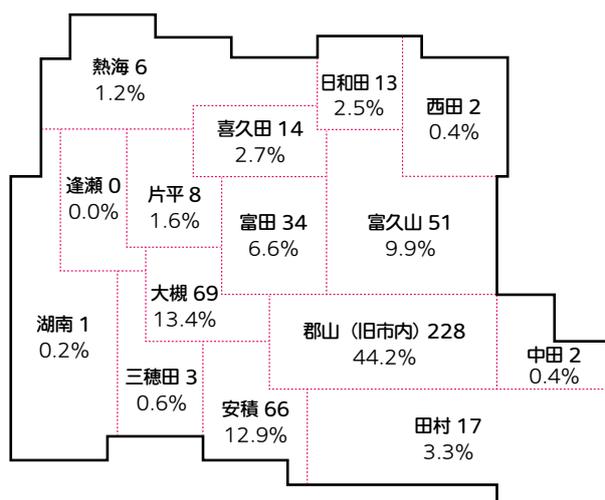
【平成20年 4月】



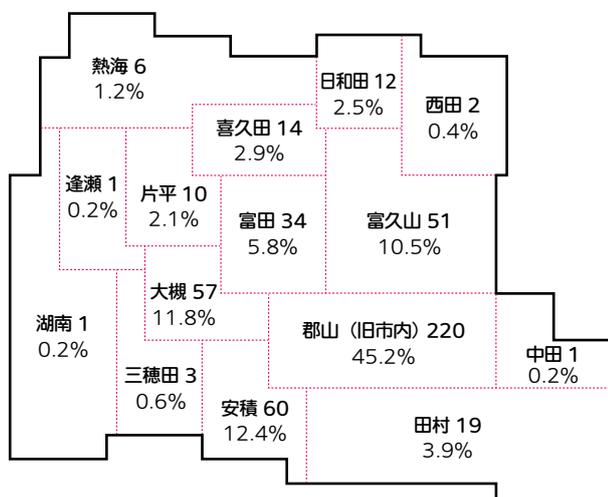
【平成21年 4月】



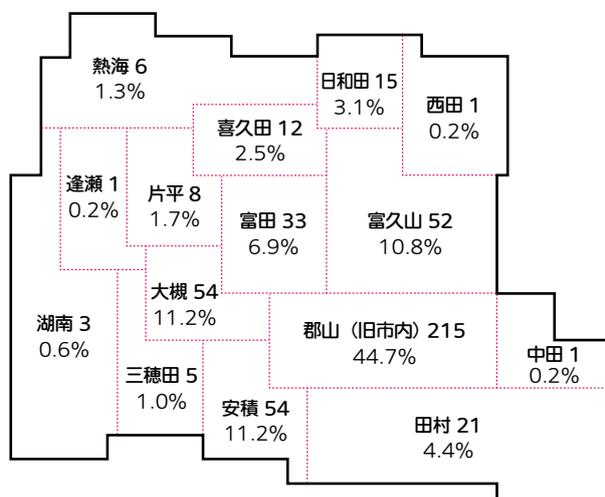
【平成22年 4月】



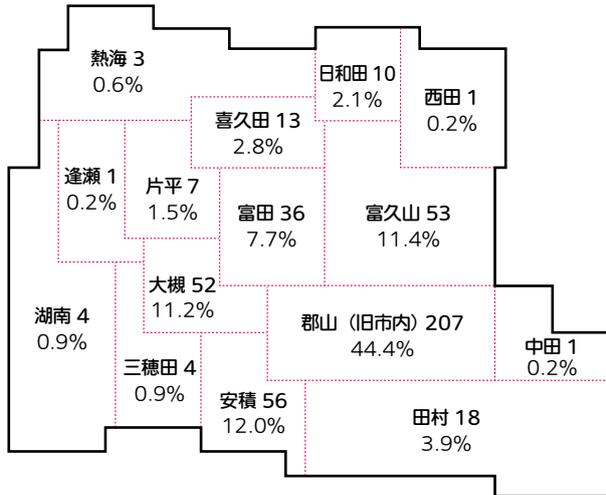
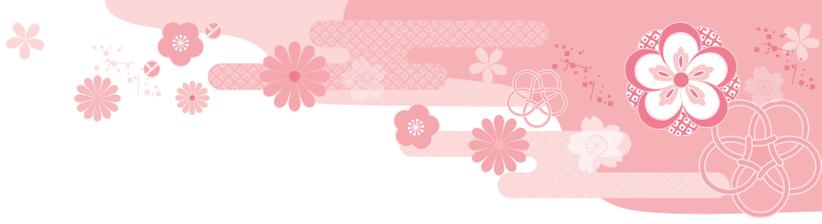
【平成23年 4月】



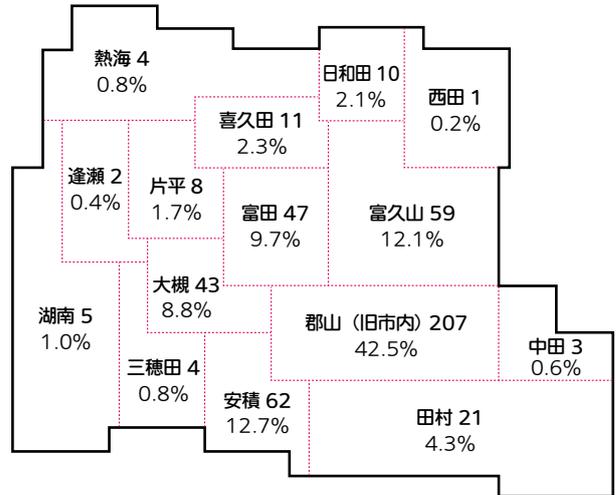
【平成24年 4月】



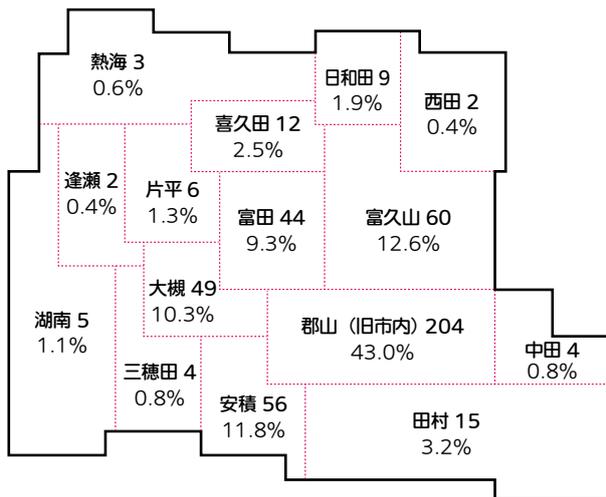
【平成25年 4月】



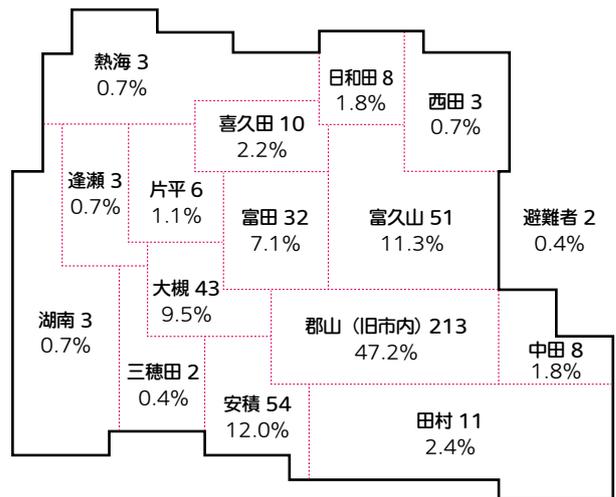
【平成26年 4月】



【平成27年 4月】

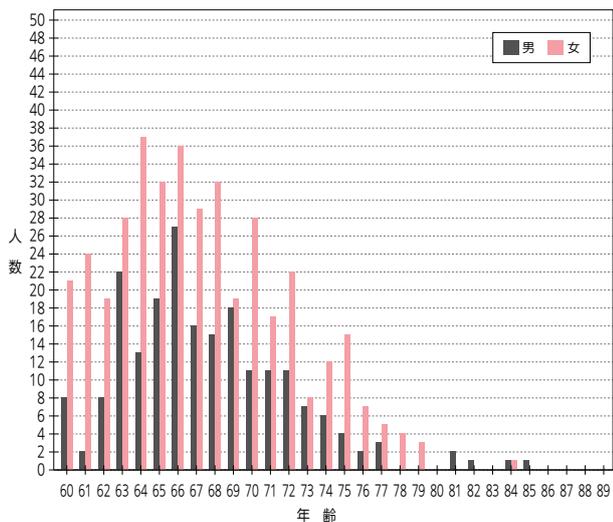


【平成28年 4月】

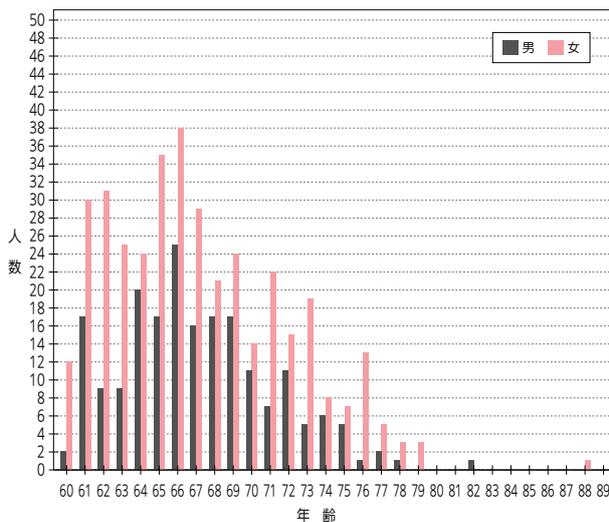


【平成29年 4月】

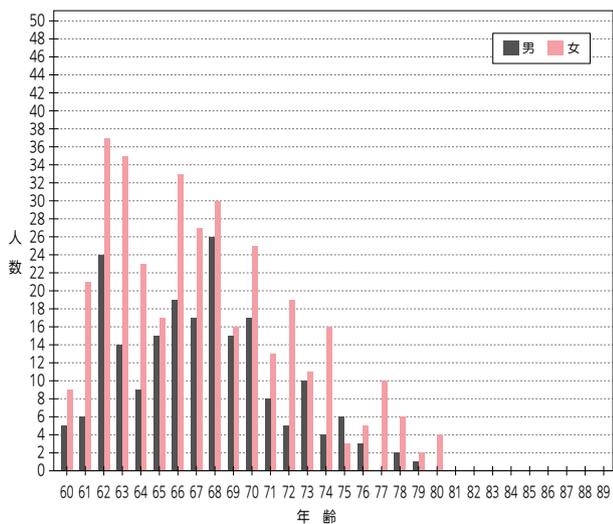
8 学生年齢構成



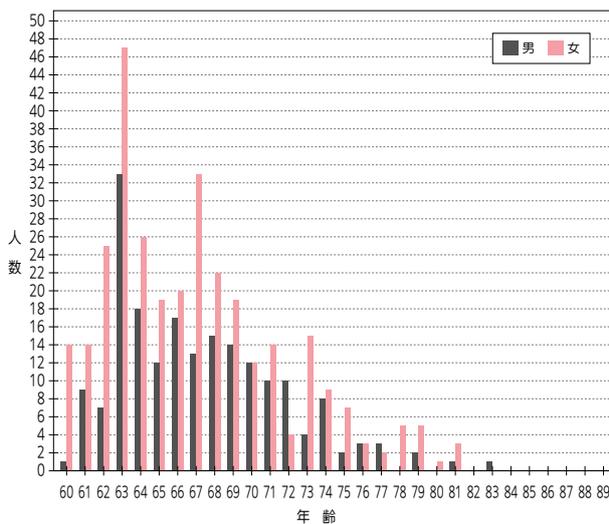
【平成20年 4月】



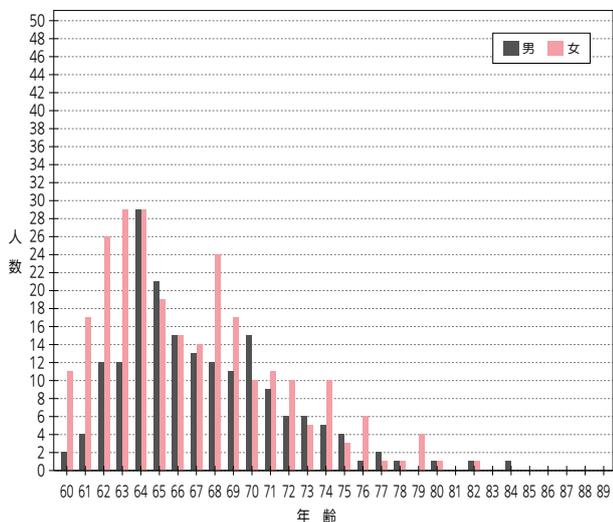
【平成21年 4月】



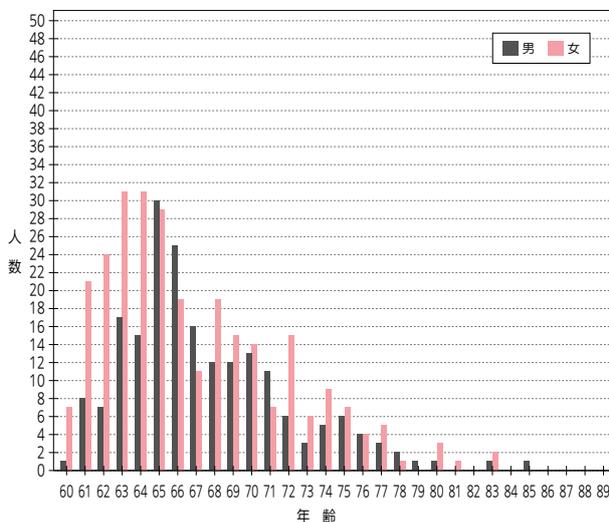
【平成22年 4月】



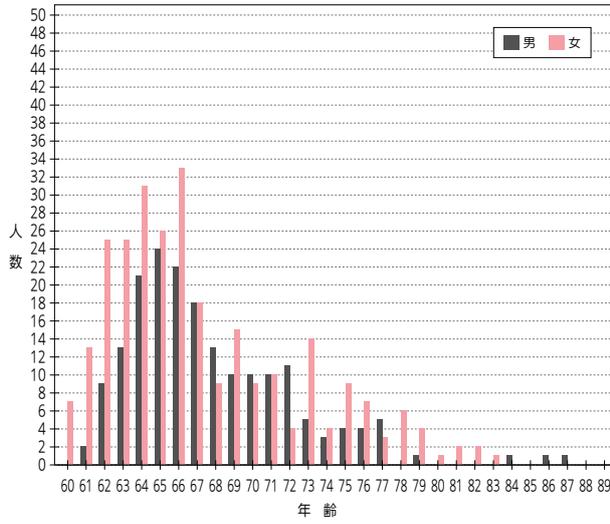
【平成23年 4月】



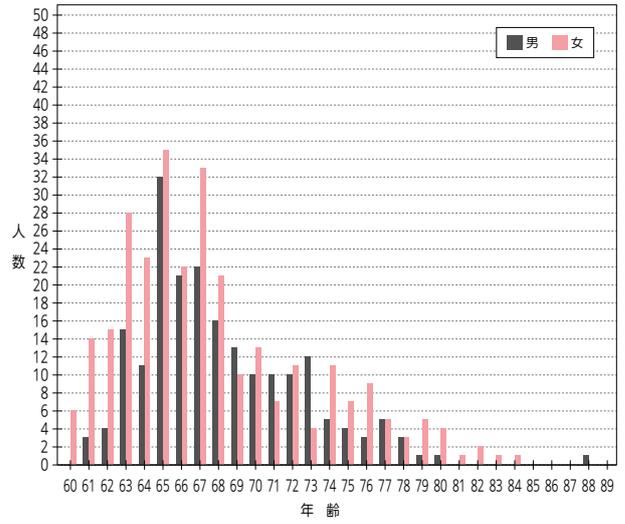
【平成24年 4月】



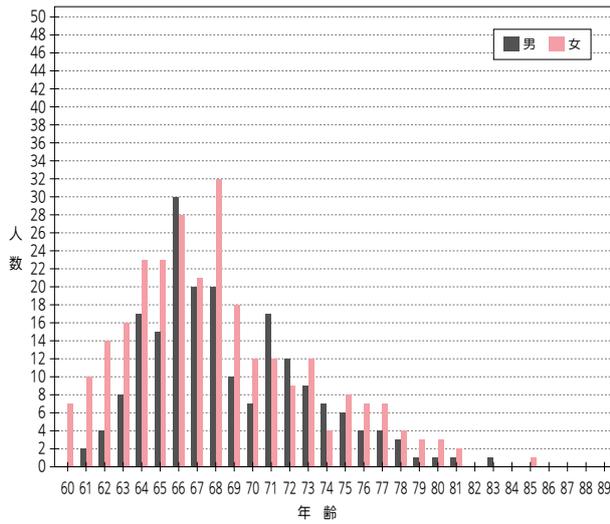
【平成25年 4月】



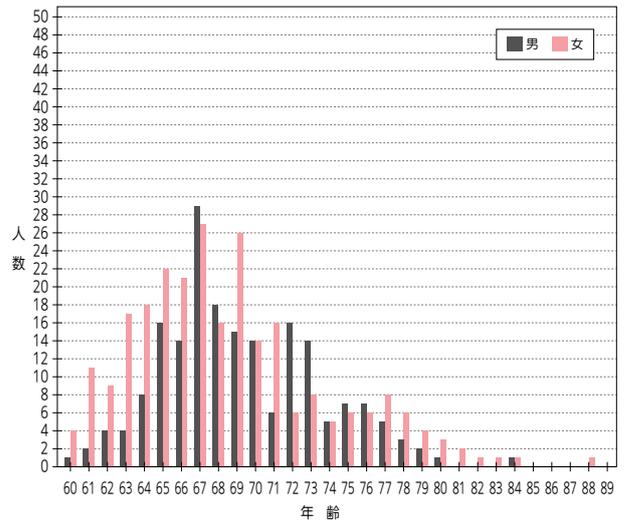
【平成26年 4月】



【平成27年 4月】



【平成28年 4月】



【平成29年 4月】

9 学園行事

入学式・始業式

年度	実施日	教養課程入学者数				入学生の ことば	学 長	学長講話題名
		1A	1B	1C	計			
		専門課程入学者数				在校生の ことば		
3A	3B	3C	計					
平成 20年	4月16日 (水)	54	54	56	164	横田忠義	原 正夫	「人と環境のハーモニー 魅力あるまち郡山」
		47	51	48	146	河嶋公平 (4C)		
平成 21年	4月15日 (水)	48	51	47	146	渡辺興基	原 正夫	「未来へつなぐ 魅力あるまちづくり」
		40	51	49	140	小幡 弘 (4B)		
平成 22年	4月15日 (木)	52	57	44	153	藤川泰正	原 正夫	「夢と希望があふれる まちづくり」
		49	46	48	143	濱尾直美 (4C)		
平成 23年	4月14日 (木)	38	50	38	126	清水利昭	原 正夫	
		38	46	40	124	横田忠義 (4C)		
平成 24年	4月12日 (木)	38	46	52	136	仲島弘昭	原 正夫	「あさかの学園で 心豊かな生活を」
		41	50	33	124	箭内喜訓 (4B)		
平成 25年	4月16日 (火)	47	54	44	145	橋本常男	品川萬里	
		21	40	32	93	青山 功 (4C)		
平成 26年	4月11日 (金)	40	50	41	131	佐田一志	富田孝志	
		30	40	48	118	清水利昭 (4C)		
平成 27年	4月10日 (金)	38	49	51	138	本間幸平	富田孝志	
		33	47	33	113	仲島弘昭 (4A)		
平成 28年	4月16日 (火)	38	47	47	132	星 武彦	富田孝志	
		33	46	35	114	渡辺秀夫 (4A)		
平成 29年	4月14日 (金)	34	51	41	126	大原秀一	富田孝志	
		31	35	40	106	佐田一志 (4C)		



富田学長 式辞



校歌「青春ふたたび」
斉唱



教養課程1年生
記念写真撮影

健康づくり

年度	実施月日	実行委員長	副実行委員長	競技種目	
	会場	入賞学級			指導者
		優勝	準優勝	第3位	
平成20年	9月12日 (金)	武澤 徹 (4C)	佐藤 三郎 (4A)		・ストライク ・ころがせ大玉 ・カニさんのボール運び ・玉入れ ・ファッションショー
	郡山 総合体育館	3C	2C	4B	レクリエーション 『仲間といっしょに、健康増進』 元郡山女子大学短期大学部教授 國馬 善郎 先生
平成21年	10月7日 (水)	菊池平四郎 (4B)	加藤 哲雄 (4A)		・ころがせ大玉 ・ストライク ・カニさんのボール運び ・玉入れ ・ファッションショー
	郡山 総合体育館	2B	2C	4A	レクリエーション 『日々の実践、豚コロリ』 元郡山女子大学短期大学部教授 國馬 善郎 先生
平成22年	9月9日 (木)	高橋 守之 (4C)	浅井 茂 (4A)		・ころがせ大玉 ・ストライク ・カニさんのボール運び ・玉入れ ・ファッションショー
	郡山 総合体育館	1位同点 2A 3C		3B	レクリエーション 『元気いっぱい、わが人生』 元郡山女子大学短期大学部教授 國馬 善郎 先生
平成23年	9月15日 (木)	清田 直樹 (4C)	平塚 和子 (4A)		・ころがせ大玉 ・ストライク ・カニさんのボール運び ・玉入れ ・ファッションショー
	郡山 ユラックス 熱海	2A	4A	3A	レクリエーション 『シルバーエイジの底力』 元郡山女子大学短期大学部教授 國馬 善郎 先生
平成24年	10月7日 (水)	橋本 晴彌 (4B)	大和田まさ子 (4C)		・ころがせ大玉 ・ストライク ・カニさんのボール運び ・玉入れ ・ファッションショー
	郡山 ユラックス 熱海	1位同点 2B 4A		3位同点 2C 3A	レクリエーション 『超元気！！昭和っ子の底力』 元郡山女子大学短期大学部教授 國馬 善郎 先生



年度	実施月日	実行委員長	副実行委員長		競技種目
	会場	入賞学級			指導者
		優勝	準優勝	第3位	
平成25年	7月11日 (木)	野添 純一 (3A)	熊田 孝行 (4B)		<ul style="list-style-type: none"> ・ころがせ大玉 ・ストライク ・カニさんのボール運び ・タッチダウン ・めおと道
	郡山 総合体育館	3B	研修1	3位同点 1B 研修2	レクリエーション 『元気いっぱい 負けられません子・孫に』 元郡山女子大学短期大学部教授 國馬 善郎 先生
平成26年	9月10日 (水)	国分 好治 (4A)	佐藤よし子 (3A)		<ul style="list-style-type: none"> ・ころがせ大玉 ・ストライク ・カニさんのボール運び ・タッチダウン ・めおと道
	郡山 総合体育館	4B	3A	2A	レクリエーション 『青春再び、東京五輪』 元郡山女子大学短期大学部教授 國馬 善郎 先生
平成27年	7月1日 (水)	橋本 憲治 (3B)	八木澤直子 (3A)		<ul style="list-style-type: none"> ・ころがせ大玉 ・ストライク ・カニさんのボール運び ・ワールドカップ ・めおと道
	郡山 総合体育館	4A	4C	3B	レクリエーション 『あれから半世紀 東京オリンピック』 元郡山女子大学短期大学部教授 國馬 善郎 先生
平成28年	9月7日 (水)	高橋 健一 (3C)	大数見静子 (3A)		<ul style="list-style-type: none"> ・落とすなアイス ・ストライク ・カニさんのボール運び ・ワールドカップ ・めおと道
	郡山 総合体育館	3B	2A	3位同点 1A 2C	レクリエーション 『笑顔いっぱい 健康ライフ』 元郡山女子大学短期大学部教授 國馬 善郎 先生
平成29年	9月6日 (水)	佐藤 金重 (3B)	野口 和子 (2A)		<ul style="list-style-type: none"> ・落とすなアイス ・ストライク ・カニさんのボール運び ・ワールドカップ ・めおと道
	郡山 総合体育館	2B	4A	3位同点 4B 4C	レクリエーション 『笑顔いっぱい 健康ライフ』 「スクエアダンス」 元郡山女子大学短期大学部教授 國馬 善郎 先生



競技前の準備体操



大玉を落とさず
ゴールイン!



ふたりの「息」を
合わせて!!



応援にも
力が入ります



ラグビーボールを
交互にキック



めおと道
浮き輪と手を離さないで

ヤッター！！
準優勝



郡山市豊かな長寿社会 いきいきふれあいの集い

開催日	提言 1	提言 2	活動事例発表	記念講演
	提言者			講師
平成20年 11月6日	思いやりの心を大切に	豊かな地域のためにできること	私たちの地域で共に生きる外国人	～「のど自慢」12年の旅から～ であい ふれあい ひびきあい
	福島県立湖南高等学校 3年 安津畑裕香 さん	郡山青年会議所 監事 榎新拓 副社長 佐藤 徹哉 氏	ボランティア日本語倶楽部 代表 宗像 瑞子 氏	元NHKアナウンサー 宮川 泰夫 氏
平成21年 8月25日	歌舞伎がつかないでくれるもの	心豊かで健やかな生活を送るために～くすりとの上手な付き合いかた～	日曜喫茶ずーぼらの会の活動について	～NHK大河ドラマ「天地人」によせて～「愛」と「義」に生きた直江兼続
	郡山市立御館中学校 3年 大和田光司 君 吉田 涼平 君	郡山青年会議所 専務理事 山口薬品株式会社 代表取締役社長 山口 仁 氏	ずーぼらの会会長 石田 陽子 氏	静岡大学教育学部 名誉教授 小和田哲男 氏
平成22年 11月5日	高齢者が生き生きと生活できる社会	豊かな地域作りを目指して	地域に根ざした『いきいきサロン』	出会い、ふれあい、人の味
	日本大学東北高等学校 1年 山内 愛子 さん	郡山青年会議所 副理事長 齊藤 邦明 氏	郡山地区社協 桑野支部長 遠藤 君子 氏	俳優 八名 信夫 氏
平成23年 11月2日	高齢化にむけて私たちは何ができるのか	より良い人間関係を築くためにすべきこと	音楽ボランティアで生涯学習	旅で出会ったあたたかい人たち！
	郡山市立西田中学校 3年 熊田 愛里 さん 折笠 文香 さん	郡山青年会議所 副理事長 加瀬元三郎 氏	しゃくなげ会花かつみクラブ 代表 宗像 清野 氏	俳優 阿藤 快 氏
平成24年 10月2日	福島で生きていく	自分のルーツを探ろう	今を楽しく、美しく一心身ともに長寿AKBで羽ばたきますー	～がんばっぺ！オラの大好きな日本～今、できること
	郡山女子大附属高等学校 3年 永崎 望未 さん	郡山青年会議所 副理事長 伊藤 実 氏	さわやか民舞研究会 会長 佐藤 和子 氏	タレント ダニエル・カール 氏

開催日	提言 1	提言 2	活動事例発表	記念講演
	提言者			講師
平成25年11月19日	豊かな長寿社会を築くために	庭木との付き合い方	笑顔で元気に貴方も私も	長寿のための食生活
	郡山市立郡山第二中学校 3年 鈴木 香帆 さん	郡山青年会議所 副理事長 株式会社環境緑建 代表取締役 菅野 貴 氏	さわやかグループ 山口 文子 氏	食文化論者・文筆家 小泉 武夫 氏
平成26年10月3日	湖南の未来～豊かな地域づくりをめざして～	みんなでつくろう人も橋も元気な長寿社会	郷愁を呼び心に響くハーモニカ音楽をとおして	人の絆 家族の大切さ
	福島県立湖南高等学校 2年 滝田 結菜 さん	郡山青年会議所 副理事長 矢田工業株式会社 専務取締役 成田 英樹 氏	ハーモニカアンサンブル エコーズ 事務局長 渡部 由次 氏	俳優 笹野 高史 氏
平成27年11月13日	人間の本能をくすぐれ！！～町づくり全体から、豊かな長寿社会づくりを～	先人たちへの感謝～この国とこのまちのかたちを守っていくために～	地域に広げよう笑顔の輪	心とからだの健康 —西野流呼吸法—
	郡山市立郡山第五中学校 2年 横田 凌央 君	郡山青年会議所 副理事長 株式会社青木工機 代表取締役社長 青木 誠 氏	いきいき友和会 和知 惇 氏	女優 由美かおる 氏
平成28年11月11日	郡山における高齢者問題と解決案について	先祖と私と未来	オカリナの音色とともに	人生、好んで楽しもう！
	学校法人帝京安積学園帝京安積高等学校 2年 澤野 未帆 さん	郡山青年会議所 副理事長 株式会社正雲堂 代表取締役 有我 庸平 氏	開成オカリナ愛好会 阿久津恵子 氏	落語家 三遊亭好楽 氏
平成29年10月6日	高齢者と私達 現在の福島県と向き合うため	世代を紡ぐ音楽のチカラ 全員参加！楽都郡山の新たなステップへ	歌と舞踊で心豊かに！！	気象・環境から家族の絆まで
	郡山市立郡山第四中学校 3年 高橋 玲音 君	郡山青年会議所 副理事長 大槻電気通信株式会社 専務取締役 大槻 俊介 氏	近森歌謡ボランティア 先崎 喜博 氏	俳優・気象予報士 石原 良純 氏



平成25年 記念講演
「長寿のための食生活」
食文化論者・文筆家
小泉 武夫 氏



平成25年 活動事例発表
「笑顔で元気に
貴方も私も」
さわやかグループ



平成26年 記念講演
「人の絆 家族の大切さ」
俳優 笹野 高史 氏



平成28年 活動事例発表
「オカリナの
音色とともに」
開成オカリナ愛好会



平成28年
会場写真



平成29年 記念講演
「石原良純 大いに語る
～気象・環境から
家族の絆まで～」
俳優・気象予報士
石原 良純 氏

学園祭

回	実施年月日	テーマ	テーマ最優秀賞	実行委員会
	会場		ポスター最優秀賞	
講演・音楽鑑賞出演者・賛助出演者等				
備 考				
17	平成20年10月8日(水)	「実りの輪 豊かに伸びる あさかの学園」	横山 忠吉 (4A)	○実行委員長 河嶋 公平(4C) ○総務部長 小幡 弘(2A) ○作品展示部長 横山 忠吉(4B) ○芸能観賞部長 青木 雅美(4B) ○事務局担当 片野 昌一
	郡山市民文化センター 大ホール			
	☆作品展示 平成20年10月9日(木) ～18日(土)		伊藤喜三郎 (4A)	
	ビッグ・アイ 6F展示室1・2			
【発表】 ビビッドコーラス 指揮：遠藤 時江 さん 伴奏：川村 彰子 さん 【講演】 「幸丸面白落語」落語家 桂 幸丸 師匠				
作品展示 183点 (洋画、日本画、書、写真、工芸、彫塑、盆栽、活花、文芸、刺繍、編み物、人形、絵手紙、押し花 等)				
18	平成21年11月5日(木)	「ふたたびの 青春輝け あさかの学園」	実行委員会 で決定 ※今年度以 降も使用 し、テー マの募集 はしない	○実行委員長 小幡 弘(2B) ○総務部長 笠井 整(4C) ○ステージ発表部長 高橋 正好(4B) ○事務局担当 田部 瑞雄
	郡山市民文化センター 大ホール		松浦 光子 (3A)	
【発表】 ビビッドコーラス 指揮：阿部 信幸 さん 伴奏：川村 彰子 さん 【賛助出演】 本年度から賛助出演なし				
ステージ発表 15グループ (合唱、合唱と踊り、歌とフラダンス、歌とスポーツ 民謡、合唱と楽器 等)				



回	実施年月日	テ ー マ	テーマ最優秀賞	実行委員会
	会 場		ポスター最優秀賞	
講演・音楽鑑賞出演者・賛助出演者等				
備 考				
19	平成22年10月6日(水)	「ふたたびの 青春輝け あさかの学園」	大竹 タケ (1A)	<ul style="list-style-type: none"> ○実行委員長 濱尾 直美(4C) ○総務部長 渡邊 武昭(4B) ○作品展示部長 舟山 清成(4A) ○芸能観賞部長 藤田 鋼司(4B) ○事務局担当 緑川 真吉
	郡山市民文化センター 大ホール			
	☆作品展示 平成22年10月10日(日) ～19日(火)			
	ビッグ・アイ 6F展示室1・2			
<p>【発表】 ビビッドコーラス 指揮：阿部 信幸さん 伴奏：川村 彰子さん</p> <p>【講演】 「笑いの中に人情あり」 落語家 林家 染丸 師匠</p> <p>作品展示 174点 (洋画、日本画、書、写真、工芸作品、彫塑、盆栽、生け花、文芸、押し花、人形、和洋裁、編物 等)</p>				
20	平成23年10月6日(木)	「ふたたびの 青春輝け あさかの学園」	眞壁 良子 (2C)	<ul style="list-style-type: none"> ○実行委員長 横田 忠義(4C) ○総務部長 関 満雄(3A) ○ステージ発表部長 渡邊 恒夫(4B) ○事務局担当 緑川 真吉
	郡山ユラックス熱海 多目的ホール			
<p>【発表】 ビビッドコーラス 指揮：阿部 信幸さん 伴奏：川村 彰子さん</p> <p>ステージ発表 12グループ (合唱、スクエアダンス、踊りと合唱、ミュージカル風歌劇 等)</p>				
21	平成24年11月7日(水)	「ふたたびの 青春輝け あさかの学園」	瀬田 武廣 (4C)	<ul style="list-style-type: none"> ○実行委員長 箭内 喜訓(4B) ○総務部長 清水 利昭(2C) ○作品展示部長 越田 敏和(2B) ○事務局担当 須賀 彰廣
	郡山市民文化センター 大ホール			
	☆作品展示 平成24年11月10日(土) ～17日(土)			
	ビッグ・アイ 6F展示室1・2			
<p>【発表】 ビビッドコーラス 指揮：阿部 信幸さん 伴奏：川村 彰子さん</p> <p>【講演】 ～元気で長生き100歳食～「長生きするための食事学入門」 食文化史研究家・食文化研究所長 西武文理大学客員教授〔食生活論〕 永山 久夫 先生</p> <p>作品展示 135点 (洋画、日本画、書、写真、生け花、ステンドグラス、焼き物、押し絵、パッチワーク、ちぎり絵、絵手紙 等)</p>				

回	実施年月日	テ ー マ	テーマ最優秀賞	実行委員会
	会 場		ポスター最優秀賞	
講演・音楽鑑賞出演者・賛助出演者等				
備 考				
22	平成25年11月8日(金)	「ふたたびの 青春輝け あさかの学園」		○実行委員長 青山 功(4C) ○総務部長 清水 利昭(3C) ○ステージ発表部長 佐々木郡次(3A) ○事務局担当 宇佐美秀昭
	郡山市民文化センター 中ホール		眞壁 良子 (4C)	
【発表】ビビッドコーラス 指揮：阿部 信幸 さん 伴奏：川村 彰子 さん 【賛助出演】フラダンスクラブ 日本舞踊教室				
ステージ発表 14グループ (合唱、合唱とダンス、寸劇、スクエアダンス、フォー クダンス、スポーツ民謡 等)				
23	平成26年10月28日(火)	「ふたたびの 青春輝け あさかの学園」		○実行委員長 清水 利昭(4C) ○総務部長 八代 一郎(2B) ○作品展示部長 斉藤 寿良(2C) ○事務局担当 金子 啓男
	郡山市民文化センター 大ホール		瀬田 武廣 (研修2)	
	☆作品展示 平成26年11月16日(日) ～22日(土)			
ビッグ・アイ 6F展示室1・2				
【発表】ビビッドコーラス 指揮：遠藤 時江 さん 伴奏：川村 彰子 さん 【講演】「脳を鍛える活脳トレーニング」 諏訪東京理科大共通教育センター教授 篠原 菊紀 氏				
作品展示 152点 (洋画 日本画、書、写真、和紙人形、押し絵、刺繍、ちぎり絵、 皮工芸、寄せ植え、生け花、焼き物、パッチワーク、編物、木彫 等)				
24	平成27年10月7日(水)	「ふたたびの 青春輝け あさかの学園」		○実行委員長 仲島 弘昭(4A) ○総務部長 渡辺 秀夫(3A) ○ステージ発表部長 桜井 幹夫(4B) ○事務局担当 渡部 博志
	郡山市民文化センター 大ホール		増子 恭子 (3B)	
【発表】ビビッドコーラス 指揮：阿部 信幸 さん 伴奏：川村 彰子 さん				
ステージ発表 14グループ (合唱と踊り、歌とコント、健康体操、フラダンス、 寸劇、演舞、歌とスポーツ民謡 等)				



回	実施年月日	テ ー マ	テーマ最優秀賞	実行委員会
	会 場		ポスター最優秀賞	
講演・音楽鑑賞出演者・賛助出演者等				
備 考				
25	平成28年10月6日(木) 郡山市民文化センター 大ホール	「ふたたびの 青春輝け あさかの学園」	鈴木 光子 (4A)	○実行委員長 渡辺 秀夫(4A) ○総務部長 本間 幸平(2A) ○作品展示部長 石本 信孝(2C) ○事務局担当 渡邊 晋一
	☆作品展示 平成28年11月13日(日) ～19日(土)			
	ビッグ・アイ 6F展示室1・2			
<p>【発表】 ビビッドコーラス 指揮：阿部 信幸さん 伴奏：川村 彰子さん 【講演】 ～アトピーからがんまで～きれい社会の落とし穴「免疫力をつける生活」 東京医科歯科大学名誉教授 藤田紘一郎氏</p>				
<p>作品展示 180点 (洋画、日本画、書、写真、編物、染色、一閑張り、吊るし飾り、 パッチワーク、木目込み人形、ちぎり絵、皮工芸、彫塑、盆栽、生け花 等)</p>				
26	創立30周年記念 平成29年11月17日(金)	「出逢いし友と 学ぶ喜び あさかの学園 30年」	坪川ムツ子 (3B)	○実行委員長 佐田 一志(4C) ○総務部長 石本 信孝(3C) ○ステージ発表部長 新野あや子(4C) ○事務局担当 鈴木ヨシ子
	郡山市民文化センター 大ホール		宗形 いし (3C)	
<p>【発表】 ビビッドコーラス 指揮：阿部 信幸さん 伴奏：川村 彰子さん ステージ発表 14グループ (合唱と寸劇、ダンス、コント、打楽器演奏、健康体 操、フラダンス 等)</p>				

郡山市あさかの学園大学 創立30周年記念学園祭テーマ

- ◇ **最優秀賞** 「出逢いし友と学ぶ喜び あさかの学園30年」
専門1年 郷土・生活学科 坪川ムツ子
- ◇ **優秀賞** 「出会いふれあい30年 友と学ぼう あさかの学園」
専門2年 郷土・生活学科 田村 實
- ◇ **優秀賞** 「歩み続けて30年 今も青春 あさかの学園」
教養1年 郷土・生活学科 熊谷 俊一

◎ 応募作品 83点

番号	テ ー マ
1	共に歩んで30年 輝く未来へ あさかの学園
2	広げよう笑顔の輪 絆もかたし あさかの学園
3	輝きながら30年 我が青春 今ここに
4	時をこえて 今こそ輝こう
5	今日の出合いは 明日を紡ぐ あさかの学園30年
6	百歳まで いきいき人生 あさかの学園
7	繋ごう30年の歴史 羽ばたけ未来へ あさかの学園
8	歩み30年 青春ReBORN あさかの学園
9	あさかの学園 明るい未来に 子ども孫も
10	学びやの 輝く30年 あさかの学園
11	登り続けて30年 いきいき人生 あさかの学園
12	はばたけ あさかの学園未来を抱いて 30年
13	青年にもまさる 息吹の学舎 あさかの学園
14	輝け再び青春 あさかの学園 30年
15	半世紀 目指そう越えよう あさかの学園
16	もう一度 青春の山ごえ あさかの学園
17	今日笑顔が 明日への一步 そこにあさかの学園
18	地域社会と共に30周年 あさかの学園
19	歩み続けて30年 今も青春 あさかの学園
20	郡山の礎を築いて30年 未来に向かおう あさかの学園

番号	テ ー マ
21	ときめき歩んで30年 明日を夢みる あさかの学園
22	みんなと創ろう 未来を創る あさかの学園30周年
23	未来に向かって航海続く あさかの学園30周年
24	栄光の30年 凱歌の人生 あさかの学園
25	三十路を超えて めざせ生涯現役 あさかの学園
26	やすらぎの花園 あさかの学園
27	共に育み30年 絆深め未来へ翔ぶ あさかの学園
28	知性と健康 仲間と共に あさかの学園
29	歩み続けて 30年 輝け青春 あさかの学園
30	跳べ あさかの学園の仲間たち 笑顔と元気と友情で
31	学び続けて30年 豊かな人生 あさかの学園
32	生涯学習30年 和（わ）広がり続ける あさかの学園
33	気持ちは青春30年 光り輝け あさかの学園
34	ありがとう30年 これからも元気に あさかの学園
35	あさかの学園30才 若さいっぱい 羽ばたこう
36	未来を見つめて30年 健康・長寿で あさかの学園
37	生きがい学びし30年 笑顔が集う あさかの学園
38	30年 新しき生き甲斐と 絆をつくる あさかの学園
39	心の糧 夢を咲かそう あさかの学園
40	永遠（とわ）の青春 ホップ・ステップ・ジャンプ！！
41	その輝き グレードアップ 学園から発信
42	みんなで学び みんなで笑う あさかの学園
43	学びきて30年 希望の光 あさかの学園
44	祝 創立30周年 生涯チャレンジ 心も弾む あさかの学園
45	青春ふたたび30年 楽園築く あさかの学園
46	輝く歴史の30年 あさかの学園 ここにあり
47	出会いふれあい30年 友と学ぼう あさかの学園
48	30年の礎（いしずえ）に 羽ばたけ我ら あさかの学園
49	ふたたびのチャンス（機会）を生かそう
50	元気・元気で30年 今日元気だ あさかの学園
51	出会いを求めて30年 輝けあさかの学園

番号	テ ー マ
52	今日の出会いに幸あれと あさかの学園30年
53	今この時も 輝き 放て (はなて) あさかの学園
54	学舎の時の流れが30年の礎
55	生涯学習30年 長寿の活きがい あさかの学園
56	高齢化社会 まだ何か探しの あさかの学園
57	継続は力だ30年 教科書に登場 あさかの学園
58	元気発信あさかの学園 友と集いて30年
59	楽しく学んで30年 夢を育む あさかの学園
60	おかげさまで30年 進歩続ける あさかの学園
61	明日をめざして 楽しい輪づくり あさかの学園
62	あれから30年、これから30年 元気に！
63	仲間が増えて30年 私達が未来を開く あさかの学園
64	さあ30年 新たな歩みを あさかの学園
65	30年の月日とともに 青春謳歌の あさかの学園
66	あさか野に はばたきて ^{あす} 未来の子らに 夢つなぐ
67	洋洋と進め 我ら学びの里 あさかの学園
68	学び遊び 友情の30年 さらなる飛躍 あさかの学園
69	出逢いし友と 学ぶ喜び あさかの学園 30年
70	老いてらんねで ば
71	心つないで30年 ひとりひとりが主役 今此処から輝きの一步！
72	歴史をきざみ30年 長寿社会のパイオニア あさかの学園
73	歴史をきざみ30年 長寿社会に貢献する あさかの学園
74	花実豊かに 枯れ木たち あさかの学園30年
75	創立30年 夢あふれる あさかの学園
76	健康寿命100才 あさかの学園
77	皆さんに 縁があって感謝し 30年
78	あさかの学園 明るく楽しく元気に 30年
79	30年 ずうっと青春 あさかの学園
80	青春輝いて30年 豊かな愛がある あさかの学園
81	にこにこ WA I WA I 30年 伸ばせけんこう寿命
82	あさかの学園 明るく楽しく元気に30年
83	よみがえれ30年 一人ひとりの あさかの学園

郡山市あさかの学園大学 創立30周年記念学園祭テーマ応募者名

教養1年

番号	学科 学年	名 前
1	芸術・文化1	高橋 征行
2	〃	網田 キヨ
3	〃	菊地 恵子
4	〃	國津喜美江
5	〃	穂苅 美代
6	〃	齋藤志津子
7	〃	市川 瑞枝
8	〃	大内 喜雄
9	〃	大井 敏子
10	〃	佐久間喜代江
11	〃	大原 秀一
12	健康・福祉1	乙高フミ子
13	〃	鈴木 稔
14	郷土・生活1	山田 好
15	〃	落合 博身
16	〃	関 誠
17	〃	村上 志保
18	〃	堀田 アキ
19	〃	熊谷 俊一
20	〃	伊東 久夫
21	〃	木目沢善重
22	〃	志賀馬耒彦

教養2年

番号	学科 学年	名 前
1	健康・福祉2	佐久間十九次
2	〃	荒井 祐子
3	芸術・文化2	石井 正守
4	健康・福祉2	三浦 博
5	〃	山崎真由美
6	〃	横田 豊子
7	〃	伊藤 礼子
8	〃	吉川 義弘
9	〃	内山 光子
10	郷土・生活2	赤坂 猛清
11	〃	星 武彦
12	〃	佐藤 始
13	〃	中島 貢
14	〃	遠藤美枝子
15	芸術・文化2	高橋 一郎
16	〃	山田ヤイ子
17	〃	芳賀 妙子
18	〃	山田 泰子
19	〃	本田 耕平
20	〃	佐久間三郎
21	〃	遠山 潔
22	〃	大田 吉子
23	〃	佐久間善夫

専門1年

番号	学科 学年	名 前
1	健康・福祉3	熊田 幸子
2	"	本間 幸平
3	郷土・生活3	阿部 賢一
4	"	小川 清一
5	"	工藤 光一
6	"	矢部 恵子
7	"	塩田 修二
8	"	坪川ムツ子
9	芸術・文化3	武藤 次雄
10	"	河野 愛子
11	"	菅家 悦子
12	"	菅家 邦弘
13	"	小松 裕二
14	"	石本 信孝
15	"	大久保みつ子
16	"	斉藤 勲
17	郷土・生活3	坂口 洋一
18	健康・福祉3	矢吹ナカ子
19	"	植村美枝子

専門2年

番号	学科 学年	名 前
1	郷土・生活4	田村 實
2	"	佐々木靖泰
3	芸術・文化4	新田 セツ子
4	"	高橋 健一
5	"	佐田 一志
6	"	渡邊 紘一
7	"	村松美恵子
8	健康・福祉4	高橋 律子
9	"	伊藤 弘
10	"	夏井 進一
11	郷土・生活4	高橋 啓
12	"	矢吹 公恵
13	"	天野 湧一
14	芸術・文化4	今泉 良子
15	"	上野 知行

研修1年

番号	学科 学年	名 前
1	研修1	中村 律子
2	研修1	渡辺 秀夫



郡山市あさかの学園大学 創立30周年記念学園祭ポスター選考

最優秀賞になったテーマ
「出逢いし友と学ぶ喜び
あさかの学園30年」
を入れて…



応募作品14点

力作ぞろい！それぞれの作品に作者の熱き思いが込められています。



平成29年8月26日（土） 審査会
多くの実行委員が参集し、
審査会に臨みました。



作品の色づかい、画面構成、
伝わる雰囲気や思いを
審査のポイントとしました。

上位3作品が
決まりました



最優秀賞

優秀賞

優秀賞



二年連続の受賞となりました。



最優秀賞に満面の笑み
ポスターの主人公はご本人かも…

郡山市あさかの学園大学 創立30周年記念学園祭テーマ入賞者



左から
最優秀賞 専門課程1年 郷土・生活学科
坪川ムツ子 さん

優秀賞 専門課程2年 郷土・生活学科
田村 實 さん

優秀賞 教養課程1年 郷土・生活学科
熊谷 俊一 さん

郡山市あさかの学園大学 創立30周年記念学園祭ポスター入賞者

最優秀賞
専門課程1年 芸術・文化学科
宗形 いし さん (右)

優秀賞
教養課程2年 芸術・文化学科
大田 吉子 さん (左下)

優秀賞
専門課程2年 郷土・生活学科
田村 實 さん (右下)





開校時より30年間、大変お世話になりました(横山幸子先生)

1 A 光夫・さゆりの主人公を
やさしく見守るたくさんのクラ
スメイト



1 A 希望の一步をふみだそう、
あさかの学園1年生…

1 B 学園で一番多い50人、
そのみんながいつまでも健康で
ありますように



1 B みんなが幸せになります
ように! しあわせファミリーサ
ザエさん一家も登場です



1C 昭和の紳士・淑女が舞台に勢ぞろいです

1C プロ歌手とクラス全員がひとつになってステージを盛り上げました



2A 青春よ 永遠に！めだかの兄弟をかわいく演じます

2A めだかの兄弟たちもこんなに大きく成長しました



2B 手作りの花笠に魅せられ登場した七福



2B 手作りの花笠がすてきです お祝いのドンパン、七福祭り でにぎやかに

2C あれから50年、あれから60年、あれから70年、そして「明日があるさ」



2C 今のことは忘れても、あのころのことははっきり覚えていますよね



3A 和の心を会場の皆さんにお届けします



3A 福島の名峰磐梯山を和太鼓・竹打ち・鳴子で表現





3B お座敷小唄のメロディで
替え歌「ボケますボケない小唄」
を歌う

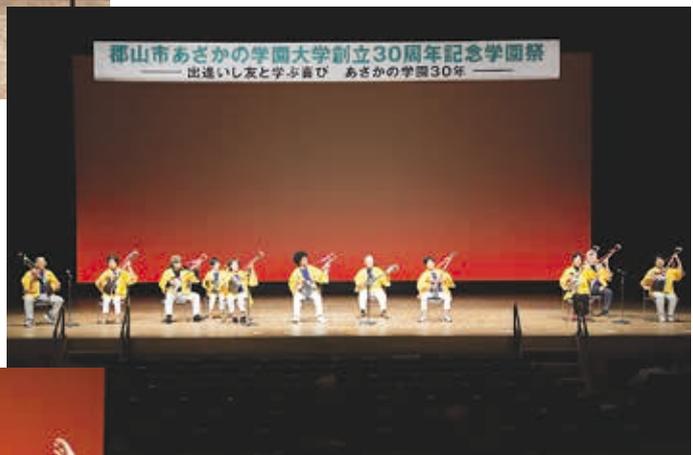
3B 高校3年生の若き日を想
い出し、替え歌を作りました



3C 熟女が1人混じっていま
すが、視線の先に一点集中です



3C 渋さ際立ついぶし銀の味
わい、スコップ三味線に初挑戦



4A 皆さんおなじみの「サザ
エさん」に合わせて軽やかに踊
ります





4A 4年間をふり返り、感謝の気持ちをこめたステージ…

4B パワフルな演舞に観客も白熱！



4B 手作りの衣装でキレイのある踊りを披露するよさこい隊

4C 太極拳にトライする心意気、その真剣さがすごいです



4C 健康とクラスでの仲間づくり 太極拳 バンザイ！！



研1 A 教養1年の時から踊ってきた「幸せじゃん」

研1 B 「かあさんの歌」しみじみと歌声を響かせます



研1 B 一糸乱れない協調性、心をひとつに高齢者の主張を！

研1 C 清く正しくのんびりと、お先にどうぞのクラスで美しく花笠音頭をご披露します



研2 A 息の合ったラインダンス、笑顔いっぱい夢いっぱい！



研2A 在籍6年間の学びと出会いに感謝し、ひばりメドレーを

研2B 「私たちは昭和に生まれてよかった！！」



研2B おばあちゃんと孫のほのぼのとした会話から思い出話を...



研2C 異国のムードに酔いしれそうです



研2C 昭和を代表する世代のエネルギーあふれる踊り



卒業式・修了式

年度	員数	教養課程卒業生数				専門課程卒業生数				卒業生を送ることば
		2A	2B	2C	計	4A	4B	4C	計	卒業生のことば
実施日										学長
										会場
平成20年	在籍者数	51	58	53	162	44	46	48	138	小幡 弘 (専門課程1年 郷土・生活学科)
	卒業生数	49	58	52	159	43	44	47	134	河嶋 公平 (専門課程2年 芸術・文化コース)
	学長賞	/	/	/	/	9	4	3	16	
3月12日(金)	皆勤賞数	11	10	22	43	15	9	10	34	原 正夫
	精勤賞数	19	25	12	56	12	17	25	54	郡山市民文化センター 中ホール
平成21年	在籍者数	50	52	53	155	42	47	47	136	濱尾 直美 (専門課程1年 芸術・文化学科)
	卒業生数	49	52	53	154	42	47	47	136	小幡 弘 (専門課程2年 郷土・生活学科)
	学長賞	/	/	/	/	5	8	3	16	
3月12日(金)	皆勤賞数	10	17	16	43	16	14	12	42	原 正夫
	精勤賞数	24	19	19	62	21	21	19	61	郡山市民文化センター 中ホール
平成22年	在籍者数	44	49	45	138	40	49	48	137	横田 忠義 (専門課程1年 芸術・文化学科)
	卒業生数	44	49	44	137	40	49	48	137	濱尾 直美 (専門課程2年 芸術・文化学科)
	学長賞	/	/	/	/	4	6	10	20	
3月11日(金)	皆勤賞数	11	15	5	31	13	14	15	42	原 正夫
	精勤賞数	15	28	20	63	16	18	12	46	郡山市民文化センター 中ホール



年度	員数	教養課程卒業生数				専門課程卒業生数				卒業生を送ることば
		2A	2B	2C	計	4A	4B	4C	計	卒業生のことば
実施日										学長
										会場
平成23年	在籍者数	42	54	35	131	44	45	45	134	箭内 喜訓 (専門課程1年 芸術・文化学科)
	卒業生数	42	53	34	129	44	45	44	133	
	学長賞	/	/	/	/	5	9	6	20	横田 忠義 (専門課程2年 芸術・文化学科)
3月13日(火)	皆勤賞数	9	7	3	19	7	7	5	19	原 正夫
	精勤賞数	23	30	20	73	19	12	16	47	ビッグアイフ階 大会議室
平成24年	在籍者数	31	42	35	108	35	45	38	118	青山 功 (専門課程1年 芸術・文化学科)
	卒業生数	31	42	34	107	34	45	36	115	
	学長賞	/	/	/	/	7	11	2	20	箭内 喜訓 (専門課程2年 芸術・文化学科)
3月13日(水)	皆勤賞数	3	13	6	22	1	2	0	3	原 正夫
	精勤賞数	22	20	14	56	14	24	17	55	郡山市民文化センター 中ホール
平成25年	在籍者数	34	44	48	126	37	48	32	117	清水 利昭 (専門課程1年 芸術・文化学科)
	卒業生数	33	44	48	125	37	48	31	116	
	学長賞	/	/	/	/	5	2	2	9	青山 功 (専門課程2年 芸術・文化学科)
3月13日(木)	皆勤賞数	4	6	5	15	2	2	1	5	品川 萬里
	精勤賞数	18	27	26	71	19	26	16	61	郡山市民文化センター 中ホール

年度	員数	教養課程卒業者数				専門課程卒業者数				卒業生を送ることば
		2A	2B	2C	計	4A	4B	4C	計	卒業生のことば
実施日										学長
										会場
平成26年	在籍者数	39	49	39	127	20	38	30	88	仲島弘昭 (専門課程1年 健康・福祉学科)
	卒業生数	39	49	39	127	20	38	30	88	
	学長賞	/	/	/	/	2	10	3	15	清水 利昭 (専門課程2年 芸術・文化学科)
3月13日(金)	皆勤賞数	11	10	9	30	2	4	0	6	富田 孝志
	精勤賞数	18	25	19	62	13	17	15	45	郡山市民文化センター 中ホール
平成27年	在籍者数	36	49	40	125	28	39	48	115	渡辺 秀夫 (専門課程1年 健康・福祉学科)
	卒業生数	36	49	39	124	27	39	48	114	
	学長賞	/	/	/	/	2	5	3	10	仲島 弘昭 (専門課程2年 健康・福祉学科)
3月11日(金)	皆勤賞数	3	10	2	15	2	2	2	6	富田 孝志
	精勤賞数	17	20	22	59	13	22	27	62	郡山市民文化センター 中ホール
平成28年	在籍者数	52	52	53	157	41	45	47	133	佐田 一志 (専門課程1年 芸術・文化学科)
	卒業生数	50	52	53	155	41	45	47	133	
	学長賞	/	/	/	/	6	7	4	17	渡辺 秀夫 (専門課程2年 健康・福祉学科)
3月10日(金)	皆勤賞数	22	12	15	49	16	14	10	40	富田 孝志
	精勤賞数	14	20	22	56	15	15	19	49	郡山市民文化センター 中ホール



卒業生を送る言葉



学長賞の授与



卒業証書の授与



全学生による国歌斉唱



卒業式・修了式全景



全学生による校歌斉唱

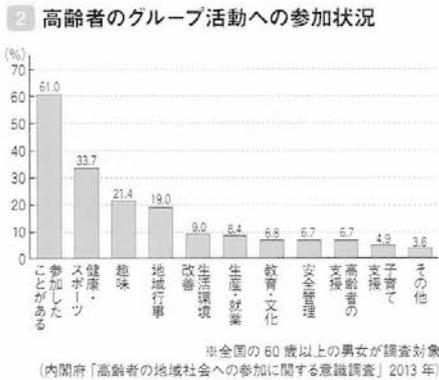
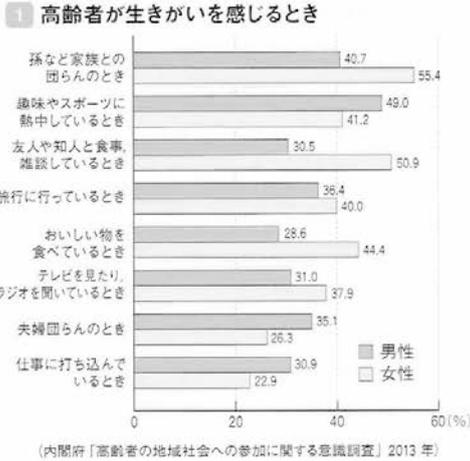


卒業生の退場



高等学校教科用図書家庭科用で「あさかの学園大学」が紹介されました。

- 「家庭基礎～明日の生活を築く」～ 平成29年度版
P52 第1部 人生を見通し、共に生きる 第3章 高齢期の生活
開隆堂出版株式会社 東京都文京区向丘1-1-1
代表者 大隈 隆晴



3 高齢者と実際にかかわろう

高齢者の生きがい 高齢者が生きがいを最も感じるのは、孫など家族との団らんの時が多い。男女別で見ると、女性は男性に比べ、家族との団らん、友人との食事や雑談、おいしい物を食べているとき、男性は趣味やスポーツに熱中しているときに生きがいを感じている。

60歳以上の高齢者の半数以上が自主的にグループ活動に参加しており、その割合は年々増加している。活動としては、健康・スポーツ、趣味、地域行事等となっている。このようなグループ活動に参加することによって、新たな友人を得る、あるいは生活に充実感等を感じている。また、半数以上の高齢者が生涯学習に参加しており、その内容は健康・スポーツや音楽・美術等の趣味的なものが多くなっている。このようなアクティブな高齢者はますます増えていくだろう。

世代間の交流 高齢者は若い世代との交流に高い関心をもっており、このような世代間交流を促進するためには、交流機会の設定や交通機関の整備等とともに、若い世代への交流を呼びかけることも大切である。

反面、地域から孤立し、「何日も誰とも話をしていない」という高齢者もいる。誰もが高齢になっても生きがいを感じられるためには、物理的な環境整備のみならず、年齢に関係なく、人間の尊厳を尊重する意識が必要だといえる。

3 地域で行われている高齢者の活動



●おとこの台所(東京都世田谷区)
不得意な料理を通じて、定年退職後の男性の活動拠点となっている。



●あさかの学園大学(福島県郡山市)
60歳以上の郡山市民を対象にした高齢者学校。教養課程と専門課程を4年間かけて学ぶ。



●株式会社「いろどり」(徳島県上勝町)
木の葉を懐石料理のつまものとして販売する、高齢者主体の企業。地域経済にも大きく貢献している。

10 郡山市あさかの学園大学開設要綱

昭和63年3月30日制定

(目的)

第1条 この要綱は、大学を開設することにより、高齢者に学習の場を提供し、健康で生きがいのある生活の高揚を図り、もって高齢者福祉の増進に資することを目的とする。

(名称)

第2条 大学の名称は郡山市あさかの学園大学と称する。

(学科及び目標)

第3条 郡山市あさかの学園大学（以下「大学」という。）に教養課程及び専門課程を置き、学科の目標は、次のとおりとする。

教養課程

学 科	目 標
健康・福祉学科	豊かで生きがいのある生活を送るため、健康や福祉などの基本を学び、社会のしくみを考える。
郷土・生活学科	住みよい郷土をつくるため、地域社会を理解するとともに、環境と生活とのかかわりを考える。
芸術・文化学科	生活に潤いを持たせるために、身近な芸術や文化を理解し、自らの生き方を考える。

専門課程

学 科	目 標
健康・福祉学科	健康生活に必要な知識や技術を身につけるとともに、社会福祉の基本を知り、潤いのある生活の向上に資する。
郷土・生活学科	先人の知恵に学び、今後の生活文化の向上に資するとともに、郷土の歴史を知り、その成果を生活の中に生かす。
芸術・文化学科	芸術に関心と理解を深め、豊かな感性を育むことを図るとともに、文化の本質について学び、より豊かな生活の充実に資する。

(定員)

第4条 大学の定員は、教養課程各学科とも概ね60人、専門課程各学科とも概ね50人とする。

(実施場所)

第5条 大学の実施場所は、主として郡山市民交流プラザとする。

(修業年限)

第6条 大学の修業年限は、教養課程、専門課程ともそれぞれ2年とする。

2 開設期間は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(授業日及び授業時間)

第7条 大学の授業は、原則として毎週1回とし、授業時間は1回当たり2時間から4時間とする。

(入学資格)

第8条 大学に入学することのできる者は、市内に住所を有する60歳以上の者とする。ただし、専門課程にあっては、教養課程2年を卒業した者とする。



(入学申し込み)

第9条 大学に入学しようとする者は、学長に入学願書を提出しなければならない。

(入学の許可)

第10条 学長は、前条の規定による願書を受理したときは、その内容を審査し、適当と認めるときは、入学を許可し、その旨申し込み者に通知する。その場合において、入学を適当と認める者が、第4条に規定する定員を超えるときは、抽選により決定するものとする。

(学長及び副学長)

第11条 大学に学長及び副学長を置く。

2 学長には郡山市長又は郡山市長が指名する者、副学長には学長が学識経験者のうちから指名する者をもって充てる。

3 学長は、校務を掌理し、大学を代表する。

4 副学長は、学長を補佐し、学長に事故ある時は、その職務を代理する。

(運営委員)

第12条 大学の適切な運営を図るため、郡山市あさかの学園大学運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 学長

(2) 副学長

(3) 学生の代表

(4) その他学長の指名する者

3 前2項に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、学長が委員会に諮って定める。

(卒業証書)

第13条 学長は、大学の教養課程又は、専門課程を修了した者に対し、卒業証書を授与する。

(庶務)

第14条 大学の庶務は、保健福祉部健康長寿課において処理する。

附 則

この要綱は、昭和63年3月30日から施行する。

この要綱は、昭和64年1月5日から施行する。

この要綱は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

1 この要綱は、平成13年4月1日から施行する。

2 この要綱の施行の日前に郡山市あさかの学園大学開設要綱第3条の規定に基づく課程を修了した者は、改正後の郡山市あさかの学園大学開設要綱の相当規定に基づく課程を修了した者とみなす。

附 則

この要綱は、平成13年4月1日から施行する。

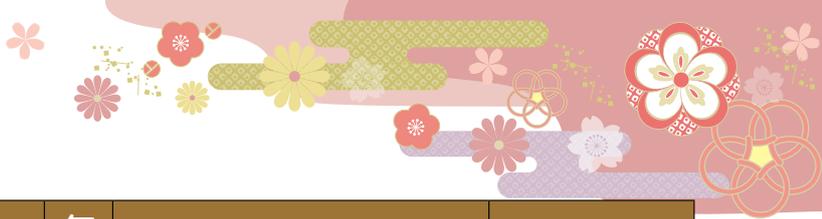
この要綱は、平成18年1月17日から施行する。

この要綱は、平成26年2月14日から施行する。

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

永年功勞の講師

	ふりがな 氏名	所属等	年数	講義名	期間
1	ほし 兵仁 ひょうじ	今泉西病院初代院長	30	目の病気～見えること、見えなくなる病気 他	昭63～平29
2	のざわ 謙治 けんじ	郡山女子大学短期大学部 教授	30	民俗学から見た日本人	昭63～平29
3	こくま 善郎 よしろう	元郡山女子大学短期大学部 教授	30	運動の楽しさ・健康づくり 熟年に鍛える 他	昭63～平29
4	なかむら 玄正 みちまさ	日本大学名誉教授	30	福島の水環境・地球環境問題・猪苗代湖の水環境	昭63～平29
5	よこやま 幸子 さちこ	梁川ざっと昔の会会長	29	昔語り	平元～平29
6	みつい 紀勝 のりかつ	福島県司法書士会 名誉会長	29	身近な法律（親族）（相続）	平元～平29
7	ふじぬま 宏彰 ひろあき	日本体力医学会 健康科学アドバイザー	29	健康で長生きするための運動のすすめ	平元～平29
8	わたなべ 哲 さとし	長野県短期大学教授	29	私たちの暮らしと環境問題	昭63～平元 平3～平29
9	わたなべ かずお かずお	(一財)脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院理事長	28	脳の働きと病気	平元～平28
10	ながつか 功 いさお	元日本大学教授	27	芭蕉と奥の細道 他	昭63～平26
11	きむら ひろこ ひろこ	栄養改善普及会 県代表リーダー	27	楽しく食べよう(実習)	平3～平29
12	たかはし 武彦 たけひこ	郡山自然薬研究所 薬剤師	25	知って得する身近な薬草 他	平3～平27
13	かんの 忠雄 ただお	元公立中学校校長	25	いきいき人生	平5～平29
14	さとう 昭一 しょういち	郡山市美術連盟会長 画家	24	絵の見方	平2～平25
15	こいずみ 仁一 じんいち	(一財)脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院脳神経外科科長	24	動脈硬化症とその予防 脳梗塞とはどんな病気か	平6～平29
16	しょうじ 一郎 いちろう	元常磐大学教授	24	食べ物と健康	平6～平29



	ふりがな 氏名	所属等	年数	講義名	期間
17	わたなべ あきら 渡邊 明	福島大学特任教授	23	気候が変わる 他	平5～平8 平11～平29
18	すみの たけし 角野 猛	東都医療大学教授	23	安全・安心の食生活を 求めて	平7～平29
19	いそぎき やすひこ 磯崎 康彦	福島大学名誉教授	22	福島県の美術 他	平5～平26
20	あべ よしとし 阿部 美敏	みどり花塾塾長	21	庭木の特性と花木類の手 入れ	平8～平19 平21～平29
21	たなか かづこ 田中かづ子	福島学院大学非常勤 講師 医学博士	21	健康づくりの達人にな ろう	平9～平29
22	しながわ みつり 品川 満紀	元福島学院大学教授	21	高齢者とボランティア 活動	平9～平29
23	わたなべ ひろいち 渡部 弘一	日本大学工学部非常 勤講師	21	人と車と社会 豊かな省エネルギー生活	平9～平29
24	やまだ ぜんお 山田 善夫	山田クリニック理事長	20	高血圧	平10～平29
25	わたなべ せいじ 渡辺 清治	元福島県総合緑化セ ンター 緑の相談員	18	アヤメとハナショウブ とハナカツミ 他	平8～平19 平21～平26
26	みむら しんじょう 三村 眞城	徳成寺住職	17	命、この尊きを頂いて	平13～平29
27	さとう まさと 佐藤 真人	クロイツ芸術学院学 院長	17	一本のフルーツと音楽	平13～平29
28	しおや いくお 塩谷 郁夫	日本社会文学会理事	17	久米正雄の生涯と文学	平13～平29
29	なかにし つとむ 中西 勉	前全国健康保険協会 福島支部長	16	健康保険と健康づくり	平14～平29
30	おかべふ じお 岡部富士夫	郡山女子大学短期大 学部非常勤講師	16	人と音楽 クラシック音楽入門	平14～平29
31	いわさき まさき 岩崎 真幸	みちのく民俗文化研 究所代表	15	衣食住の民俗	平15～平29
32	しまの みつまさ 島野 光正	福島県社会福祉会会 長	15	介護保険と住民の役割	平15～平29
33	ほしの たけひこ 星野 武彦	太田西ノ内病院運動 指導室 室長	15	高齢者の運動機能	平15～平29

※ 役職等は、在任中の役職

永年にわたり講師を務め、
本大学の発展にご尽力くださいました皆様へ、
学長から感謝状を贈呈しました。



國馬 善郎 様



中村 玄正 様



横山 幸子 様



満井 紀勝 様



藤沼 宏彰 様



渡邊 哲 様



高橋 武彦 様



田中かづ子 様



渡邊 弘一 様



渡邊 清治 様



中西 勉 様



岡部富士夫 様



庄司 一郎 様



創立30周年を迎えて

第24代学生会会長 佐田 一 志

平成29年4月をもって、郡山市あさかの学園大学は創立30周年を迎えました。一口に30周年と言いましても、その歴史の中には先輩方の築きあげてこられた伝統と実績があり、大学創立以来系統的かつ継続的なカリキュラムの編成に配慮しながら、幾多の変遷を経て大学の充実発展に努めてきたところであり、県内外に誇れる高齢者大学として各界から高い評価を得て現在に至っております。

私達学生は、授業・学級活動・現地学習・健康づくり・学園祭、学生会活動として、会報編集・うねめ踊りへの参加・レクリエーション、ボランティア活動として、素晴らしく恵まれた環境のもとで、学園での生活を明るく、楽しく元気に過ごさせて頂いており、この感謝の気持ちを出来る限り地域社会に還元することは学生会活動としてたいへん意義深く高く評価されるものとし、今後も継続して施設訪問、環境ボランティアを実施、それらを通して、自己の自覚化や社会への対応に即応した感覚は、学友との対話などから得るものであらうと思います。

学ぶことは無限であり、自己の生きる方針・方法をもつことは、生きる力となり、健康な身体に豊潤な心をもつことは、常に自覚や活動が必要です。

学園の理念である「生涯学習」は、常に向学心に燃え、元気澁刺と行動ができる人たちの集まりです。

至る平成29年11月17日には、創立30周年記念の学園祭テーマ「出逢いし友と学ぶ喜びあさかの学園30年」のテーマのもとに、創立30周年の学園祭が、文化センター大ホールでご来賓のご臨席のもとで行われ、今年度は創立30周年記念の学園祭にあわせて、永年講師の先生へ感謝の気持ちとして、感謝状・記念品の贈呈がありました。

先生方、ご指導本当にありがとうございました。今後とも宜しく願いいたします。

続いて行われました学園祭では、各クラスとも多彩な演技を披露し、出演者全員が第二の青春を楽しみながら、創立30周年記念の学園祭を無事終了することが出来ました。

結びに学園30周年記念の記念誌発行及び学園祭にたずさわった学生会実行委員、事務局職員の皆様には心より感謝申し上げます。

学生会の経過

I 学生会発足の経緯

あさかの学園大学は、昭和61年（1986年）10月に郡山市老人大学設置懇話会が設置され、種々の手続きを経て、昭和63年（1988年）4月に開校されました。

開校直後の学生は、学年会・学級会・ビビットコーラス部等個別の組織を通じての学園生活を楽しんでおりました。

開校後5年が経過した平成5年（1993年）12月に学級正副委員長会議において学生会結成の意見が提案され、会則起草委員会を設置しました。

その後、数回の委員会開催、全学級からの意見聴取、会則案の作成等を経て、平成6年（1994年）3月に市民文化センターで学生会全員が会則案を承認、学生会が発足しました。

その目的は「学生としての自覚に基づき、より充実した学生生活を目指しながら、学生相互の理解と親睦を深める事」でありました。

同年5月に第一回学生会総会を開催、この場から「あさかの学園大学学生会」が正式にその活動を開始致しました。

この目的精神は、大学創立30周年を迎える今日まで連脈として受け継がれ伝え続けられております。

学生会発足にご尽力された当時の諸先輩各位に敬意を表し、感謝する次第であります。

II 歴代学生会会長

歴代	年度	氏名	歴代	年度	氏名
1	平成6	星 具 久	13	平成18	穴 澤 作 三
2	平成7	石 田 貢	14	平成19	大 方 章 司
3	平成8	落 合 愛 寿	15	平成20	河 嶋 公 平
4	平成9	佐 藤 悦 夫	16	平成21	小 幡 弘
5	平成10	芦 野 貞 夫	17	平成22	濱 尾 直 美
6	平成11	齋 藤 秋 雄	18	平成23	横 田 忠 義
7	平成12	渡 邊 則 彦	19	平成24	箭 内 喜 訓
8	平成13	小 林 清 作	20	平成25	青 山 功
9	平成14	家久来 芳 夫	21	平成26	清 水 利 昭
10	平成15	大 原 洋 一	22	平成27	仲 島 弘 昭
11	平成16	笠 松 喜 美	23	平成28	渡 辺 秀 夫
12	平成17	村 田 久 三	24	平成29	佐 田 一 志

歴代学生会長の追想

歴代学生会会長の追想



第15代学生会会長

河嶋公平

「シュールレアリズムって分かってい？そう！誰もわからんとはダメグバイ！」これは10年前、芸術文化学科の授業の美術家佐藤昭一先生の講義のひとつです。当時私は60歳代後半でしたが、学園で学んだ西洋美術や、源氏物語・万葉集といった古典文学、奥の細道を辿る現地学習、郷土史等々授業内容の奥深さは、入学する以前の想像を超えるものでした。講師の先生に恵まれたことはもとよりですが、4年間新鮮な気持ちで興味深く楽しく学ぶことができたことは、自分自身にとって新たな発見であり感動ものでした。そして何より一期一会の心で出会いふれあいを大切にする校風のもと多くの友人クラスメートが出来たことも、学園生活の大きな意義でありました。近頃私も仲間も物覚えの劣化が目立ってきましたが、卒業（研修課程）後6年7年を経過した今もOBによる学級自主活動がアチコチで続いているのは、何をか言わんであります。世の中は国内外ともに混迷を極め無味乾燥で暗い話題ばかりが目につく昨今だけに、健康で心豊かな長寿社会を願う私たちにとって、なくてはならない存在、それがあさかの学園大学です。

卒業式が東日本大震災当日



第17代学生会会長

濱尾直美

平成19年桜花の咲く4月、あさかの学園芸術文化学科に入学、教養、専門課程を終え4年間、光陰矢の如し、に過ごしましたが、なんとその卒業式が東日本大震災当日だったのです。卒業式がもう少しで終えようとした時災害が発生し会場の市民文化センターの天井が大揺れ、会場は騒然といたしました。当時の原学長はじめ小林所長各先生の適切な配慮により全員が事故も無く会場から避難することが出来たことは何よりでした。

当日の事を思い出すと体がぞくぞくします。当時の学園は、駅前ビッグアイ7階にての生活でした。新しい仲間との、出会いふれあいの人間関係は、現役時代とは異なり年齢、職業を意識せず共に学び充実した生活を送ることが出来ました。芸術発表、学園祭ステージ発表、クラス対抗運動会、猛暑の夜の采女踊り流し、各施設でのボランティア訪問活動等、仲間が一丸となり練習に励み、素晴らしい成果を収めることが出来たことは何よりの思い出として脳裏に妬きつけられています。

学園に通うことで交友を深め、楽しみ、生甲斐となり、生涯学習、いわゆる、青春再びでした。現在も入学当時の仲間32人と名称をあさかの芸文二五会と称して学園生活を継続しております。

学園の創立30周年を機に一層の飛躍をご祈念申し上げます。

学園回想



第18代学生会会長

横田 忠義

青春再び、新しい仲間と生涯学習を学び、第二の人生を歩むため、夢と希望を胸に学園生活を始めたのは10年前のことです。

当初は不安もありましたが、学園の精神である出会い、ふれ合いを大切に各種行事や事業を体験するごとに、親しみと交流が生まれ、みんなで喜びを共にすることが思い出となり、真に楽しい学園生活を送ることができました。

私達の学年は、今も学園の門下生として学んだ経験を生かし、人のふれ合いは、それぞれ品格と識見を高め、いつまでも保って欲しい向上心は、心の成長と活力の礎えとなるよう、楽しい仲間が心身健全である限り、学園同様の活動が続くものと信じています。

学園も今や、30周年という記念すべき年を迎えました。これまで多くの学生が集まり散じても、既に歴史と伝統が築かれています。私達もその中に刻まれることを誇りとし、学、敬、恥らいの人の魅力を大切にみんなで楽しく活動して行きたいと思っています。そして、学園時代が懐かしいものとなるよう、集う学生に伝承されて行くことを期待します。

学園生活を振り返って



第19代学生会会長

箭内 喜訓

あさかの学園大学創立30周年を迎えられ誠にありがとうございます。

定年退職後、家に閉じこもっている男性を産業廃棄物などと言った言葉がある書籍に載っており、再び学ぶ決意のもと、2009年に入学致しました。3学科併せて150余名が入学し現在9年生で青春クラブとして65名が在籍、皆仲良く協調性のある学年です。

振り返って2011年に専門課程・教養課程の卒業式終了間際に文化センターで、東日本大震災に遭遇しましたが、全員混乱することなく整然とした帰路につく姿が、テレビで放映されました。

学級活動をふり返って、うねめ踊りに多くの方々が参加し、学園祭では女性の方々に指導を頂きフラダンスのステージ発表、修学旅行では信州・松島・酒田方面など、沢山の思い出ができました。

最後にあさかの学園大学が生涯学習の場であり、多くの仲間達との交流が出来ましたことは、一つの財産であり多くの方々に感謝申し上げます、今後益々のご発展をご祈念申し上げます。

創立30周年おめでとうございます



第20代学生会会長

青山 功

平成21年に友人の紹介で、芸術文化クラスに入学。研修クラブまでの6年間は私の人生の折り返しの出発点です。諸先輩方の積み上げて残してくれた素晴らしい所を引き継いで、伝統として育てていく。諸々の、学園と学生会の事業への率先参加が生きがいとなりました。うねめ踊り流しでの大賞の受賞、施設訪問での入所喜び、作品展会の出展者の実力と経歴、数十年に渡る芸術、文化教養の積み重ねた素晴らしい。学園祭ステージ発表、健康づくりの競技会と元気な姿が思い出されます。又同好会の活動、ウォーキングクラブ、ゴルフクラブ、カラオケクラブに俳句川柳と日本舞踊教室まだあるなあ、最も良く人生を体験した人達はちがうなあと感心しました。研修クラブ2年目で突然癌の宣告ステージ4、体力には自信があったのにかなりのショック、幸いにも南東北病院に最先端の医療設備陽子線治療が有り、切らずに治療を受け現在も生きています。学園での授業内容で知識が有り助かりました。大切なのはやはり健康ですね。日野原先生の「人生百年私の工夫」で話されている内容が皆さんのこれからの生活にはとても役に立つ事ではないでしょうか。60歳こそは、人生のハーフタイムである後半に人生の想いをかけてほしいと思います。学園で見つけようライフワークを自分らしく生きる事。在学中に今後をどう生きるかという“羅針盤”を持つことが大切なのです。夢を目標に生きる。それは好奇心を持ち続けられれば、余生を惰性で生きることはない。学園で体験した事を今実践して健康に良い事はボランティア活動です。ビビットコーラスで合唱を学びました。ベートーベンの第九を歌う事です。舌癌の為に舌が思う様に動きませんがリハビリを兼ねてレッスン中です。そしてこれから老年者には品格かな「人生を豊かにするユーモアの力」人を笑わせる話術、押し方引き方の知恵がほしいですね。

学園生活をふりかえって



第21代学生会会長

清水 利昭

創立30周年おめでとうございます。私達24期生の学園生活は、6年前の巨大地震と大津波、更に福島第一原発事故の複合災害に見舞われたひと月後にスタートしました。入学式は文化センターが地震の被害で使用できず、ビッグアイ7階の大会議室で行われたことを思い出します。

第二の人生に生き甲斐を求め、あさかの学園で過ごした6年間（教養2年・専門2年・研修2年）は、多くの人との出会い、多くの感動、多くの感謝に恵まれた日々でした。学園祭や運動会、うねめ踊りやバス旅行、また施設訪問や清掃奉仕のボランティア活動、そしてクラブ活動など、学園行事や学生会事業を通して多くのことを学びました。

一つの物を作り上げる難しさ、力を合わせることの大切さ、成し遂げたときの喜びなど、貴重な体験と思い出は、今でも私の大切な宝物です。卒業した今もなお「青春ふたたび」の心意気を忘れず、あさかの学園大学で学んだことを地域に還元し、少しでも明るい社会づくりに貢献すべく頑張っております。

学園の益々のご発展と学生会の更なるご活躍をご祈念申し上げます。

「一生勉強一生青春」



第22代学生会会長

仲島弘昭

創立30周年おめでとうございます。全国に誇れる素晴らしい生涯学習を築いて来られた関係当局の指導方針と、先輩の方々のご尽力に改めて敬意を表します。学園での授業は多種多様な専門の講師の先生方による授業は、長寿社会に即役立つ授業ばかりです。又数々の学園行事の中でも、特に印象に残っているのが、学園祭のステージ発表で全員で検討を兼ね練習を行ない発表したこと。又「健康づくり」では、クラス対抗戦に一丸となり、体力以上に頑張った事など思い出されます。学園に入学してから新しい仲間も増え、学ぶ意欲も湧いて、まさに「一生勉強、一生青春」だと思えます。学園行事などで校歌「青春ふたたび」を全員で合唱するたびに、いろいろ思い出され、胸に「ジン」と来るものがあります。私は現在「研修クラブ2年生」で、卒業までの最終コーナーを回っている所です。ゴールまでのわずかな時間ですが、楽しく充実した学園生活の思い出を、もっともっと作って行きたいと頑張っています。

あさかの学園大学の創立30周年を機に学園の更なる飛躍を御祈念申し上げます。

学生会活動「初の女子学生会員との懇談会等」の回顧



第23代学生会会長

渡辺秀夫

平成25年4月に入学し現在研修クラブ1学年の我々です。青春とは心の若さ⇒「明るく 楽しく 元気に みんな一緒に」をモットーに多くの仲間と素晴らしい出会いがあり、真面目に学習(?)。更に学生会や愛好会活動に参加し、新たな世界も広がり仲間との強い絆ができることに大いに感謝しております!

《学生会役員任期中の

学生会活動の振り返り》

- ・2学年の時⇒更なる社会貢献の為、施設訪問先を4施設に増設。更に施設訪問実行委員会の活動マニュアルを新規作成。
- ・3学年の時⇒学生会報及び会報速報に「写真を多く挿入し」読みやすい会報に改善。
- ・4学年の時⇒全学生会員の6割を占める女性の意見・考えを学生会活動に反映するために「各学年代表の4名の女子学生と学生会役員との懇談会」を新設しました。

*初回の懇談会では「心臓の弱い」私にとっては何を言われるか戦々恐々でした(?)

また、うねめ踊りで「優秀賞」を受賞。施設訪問先を5施設に増設。

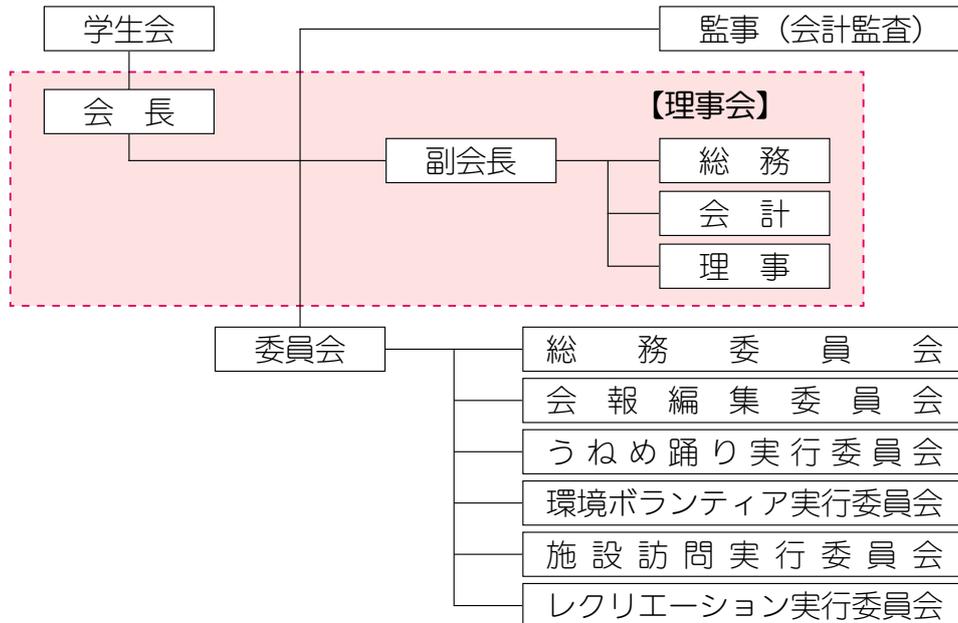
更に、学園創立30周年記念事業の成功のために「学園創立30周年記念事業学生会準備委員会」を設立し、学園との調整・積立金準備等を行い、その道筋を作り上げた後に「学生会実行委員会」に引継ぎをしました。

結びに、「学園創立30周年記念事業に関わり合え、大きな節目に巡り合えたことに感謝する」と共に、学園および学生会の今後益々の発展をご祈念申し上げます。

学生会活動の概要

I 学生会の組織と職務分掌

(1) 学生会組織



(2) 学生会の職務と職務分掌

① 役員会・理事会

役職名	職務分掌
会長	学生会を代表し、会を総理する。
副会長	会長を補佐し、会長に事故ある時は代行する。
総務	<ul style="list-style-type: none"> 総務処理、広報活動及び各種会議の総括に関すること。 事業・行事等の調整及び支援に関すること。
会計	<ul style="list-style-type: none"> 予算及び決算等会計管理に関すること。 事業・行事等の支援に関すること。
理事	理事会の事業企画及び運営に関すること。
監事	会計監査に関すること。

② 実行委員会の職務分掌

委員会名	職務分掌
総務委員会	<ul style="list-style-type: none"> 会議開催時の案内、進行、記録係等に関すること。 学生会・学園主催の行事の記録及び記念撮影等に関すること。
会報編集委員会	<ul style="list-style-type: none"> 会報の発行に関すること。 庶務担当（総務委員）との調整に関すること。
うねめ踊り実行委員会	うねめ踊りの企画及び参加等総括に関すること。
環境ボランティア実行委員会	ボランティア活動の企画立案と推進に関すること。
施設訪問実行委員会	施設訪問に関する企画立案と推進に関すること。
レクリエーション実行委員会	レクリエーション（旅行）の企画立案と推進に関すること。



2013年 (平成25年)

2014年 (平成26年)

学園・学生会・会報編集委員会10年の活動

- ◇6月 学生会の恒例事業「布引高原での農業体験」に90名が参加した。
- ◇8月 うねめ踊りに240名が参加し、「優秀賞」を受賞した。
- ◇9月 寺泊周辺の神社・工場見学の日帰りツアーに216名の学生が参加した。
- 10月 会報39号に「足るを知る」と題して、神野忠雄先生に論文掲載をお願いした。
- ◇10月～ 啓寿園、総合南東北病院福祉センター、特養ホームおおつきの施設訪問を実施した。
- ◇11月 第22回学園祭を、フラダンス・日本舞踊を賛助出演に招き、盛大に開催した。
- ◇11月19日 「いきいきふれあいの集い」で食文化論者・文筆家の小泉武夫先生の「長寿のための食生活」の記念講演が行われた。
- 3月 会報40号に「宮沢賢治と音楽との出会い」と題して、高野保夫先生に論文掲載をお願いした。

会報「あさかの」誌面より

第39号
優秀賞!

あさかの

発行	学生会
編集	山本利昭
発行所	山形大学
編集者	吉原真由
発行所	山形大学
編集者	吉原真由
発行所	山形大学
編集者	吉原真由

目次

P1	うねめまつり
P2	新学長の言葉 再びの青春...
P3	足るを知る
P4	園場・ボランティア活動

うねめ踊り実行委員会
教員 二年 健康・福祉 仲

第四十九回
うねめ踊り

毎年恒例となつてい
ねめ踊り」に、今年も
ありがとうございました
昨年新作作成しました
「ばり旗」を踊りの列に
さかの学園を十二分に

第22回学園祭
第40号

「ふたたびの青春輝け あさかの」

第二十二回郡山市あさかの学園大学の学園祭が、昨
年十一月八日、郡山市民文化センター・中ホールで開
催された。
学園祭ポスター入選者表彰などのオープニングセレ
モニーに引き続き、午前と午後の部に分かれて学生
十四のクラスによるステージ発表が行われた。
賛助出演のフラダンス・日本舞踊で幕が開き、歌と
踊りにダンス・寸劇に当て振り、各クラスそれぞれ
に特色ある演技を展開して会場を沸かせた。
ファイナルセレモニーではヒッドコーラス発表の
後、会場全員による「ふるさと」の合唱で思い出に残
る一日の幕を閉じた。

開会式

出演 フラダンスクラブ

出演 日本舞踊教室

1A 椅子体操とダンスのコ

学園・学生会・会報編集委員会10年の活動

○会報43号から講師の先生方の文章の代わりに、事務局の退任された先生方、事務局の方々の文章を掲載した。

2015年(平成27年)

◇6月「布引高原FP」活動に120余名の学生が参加し、ヒマワリの種を蒔き、8月には収穫体験をし、大根とキャベツを持ち帰ることができた。

◇8月7日 うねめ祭りに230名が参加し、見事に踊り切った。

◇9月 奥日光への日帰り旅行に180余名が参加した。

◇10月 第24回学園祭が文化センターで開催された。14クラスの演技を披露し、会場の皆さんを感動させた。

◇10月から2か月「かんたんタブレットトライアル」の学習に50余名が参加した。

2016年(平成28年)

◇9月～11月 オリオン、せいわ園、啓寿園、南東北福祉センター、特養ホームおおつきの5施設を訪問し、皆さんに感動を与えた。

○会報44号を全18ページにし、カラーページを2ページ増やした。その分「タブレットトライアル」の学習、総務理事、会計理事などの文章を掲載できた。

会報「あさかの」誌面より



うねめ踊り実行委員会の10年間の活動

1 郡山うねめ踊りへの参加

昭和40年（1970年）旧郡山市と旧安積郡9ヶ町村が大合併したこの年に、市民が一体となる祭りとして「郡山うねめ祭り」が発足しました。以後郡山市の商工会議所や各種団体の熱意が年々盛り上がりを見せ、今日に至っております。

我が学生会は平成7年8月4日、市民うねめ祭りに寄せる熱意に呼応し「第33回うねめ祭り」踊り流しに初めて参加し、市民から大きな喝采を浴び郡山市に「あさかの学園大学」ありを強く印象付けました。



この取り組みは学園生活において、学年学級の枠を超え、学生間の親睦、生き甲斐、健康の向上、若さとパワーのアピールを目的とし、毎年恒例となって今日に至るまで学生会の大きな行事として引き継がれ、「うねめ祭り」を支える大きな団体のひとつに数えられるようになりました。

このように、毎年200名を超える参加人数で継続できていることは、参加者自身がそれぞれ、あさかの学園大学の学生であることの誇りをもって、健康で踊れる喜びを感じ「うねめ祭りは私たちの祭りである」ことを実感し、充実した達成感を味わえたからに他なりません。

そして、平成29年（2017年）学園創立30周年を迎え、「第53回郡山うねめ祭り」には、記念テーマ『出逢いし友と学ぶ喜び あさかの学園30年』のプラカードを掲げて参加し、暑さを吹き飛ばす息のあった踊りを披露して、十二分に「あさかの学園大学」をPRできたと思います。

今後、益々うねめ祭りが東北を代表する祭りとして発展するとともに、我が「あさかの学園大学学生会」も、40年、50年と大きく成長し、飛躍していくものと確信いたします。

2 郡山うねめ踊り参加年表

開催回	参加年月日	実行委員長	参加人数	備考
第44回	平成20年8月2日	笠井 整	200名	優秀賞
第45回	平成21年8月8日	荒井 省吾	215名	団体賞（準優勝）
第46回	平成22年8月6日	船山 清成	230名	優秀賞
第47回	平成23年8月5日	青山 功	250名	大賞
第48回	平成24年8月3日	越田 敏和	290名	参加賞
第49回	平成25年8月3日	仲島 弘昭	240名	優秀賞
第50回	平成26年8月8日	八代 一郎	240名	審査員特別賞
第51回	平成27年8月7日	伊藤 弘	230名	参加賞
第52回	平成28年8月5日	石本 信孝	240名	優秀賞
第53回	平成29年8月4日	黒田 康雄	230名	商店街連合会会長賞



施設訪問実行委員会の10年間の活動

1 10年間の活動状況

学生会が社会奉仕活動として平成8年1月に第一回目の施設訪問を実施してから現在まで、13施設、50回の訪問（慰問）を実施しました。特に最近の10年間では36回の訪問（慰問）を行っています。

平成22年度までは「ふれあい施設訪問実行委員会」として活動、それ以降は「施設訪問実行委員会」として活動しています。訪問施設数も平成20年度までは年間2施設、平成22年度より平成25年度までは年間3施設、平成26年度は年間4施設、平成27年度からは訪問施設数は5ヶ所となっており、今年度も5ヶ所の施設訪問（慰問）を行いました。

出演者数は年々増え、平成29年度においては30団体93名の参加となり、プログラムの作成に多くの時間が必要となりました。今年度もすべての会場で、出演者、実行委員、施設の皆さんと全員で『ふるさと』を大合唱、入居者の皆さんから『ありがとう!』『又、来年も来てね!』と言われて大変感動しました。最後の訪問先で『アンコール!』のリクエストもあり、本当に心温まる感動の訪問となりました。

最後に今まで施設訪問の活動にかかわって下さった、歴代の実行委員長様をはじめ、実行委員の皆さん、出演者の皆さん、快く訪問にご協力頂いた施設の方々のご配慮に深く感謝を申し上げ、学生会としての社会貢献活動が益々拡大発展されることを念願致します。

2 施設訪問実行委員会の10年間の活動状況

年 度	実行委員長	訪問先施設	実施日	参加者数	主 な 演 目
平成20年	小幡 弘	啓寿園 南東北福祉センター	10月27日(月)	42	カラオケ・踊り・日本舞踊・他全員で合唱
			12月6日(土)	42	
平成21年	濱尾 直美	啓寿園 南東北福祉センター 笑風苑	10月26日(月)	37	カラオケ・踊り・日本舞踊・フラダンス・他全員で合唱
			12月5日(土)	45	
			12月12日(土)	45	
平成22年	箭内 喜訓	啓寿園 南東北福祉センター 笑風苑	10月23日(土)	45	カラオケ・踊り・日本舞踊・フラダンス・他全員で合唱
			12月6日(月)	45	
			12月12日(土)	45	
平成23年	箭内 喜訓	啓寿園 南東北福祉センター 笑風苑	10月15日(土)	35	カラオケ・踊り・日本舞踊・フラダンス・他全員で合唱
			11月26日(土)	44	
			12月17日(土)	27	
平成24年	清水 利昭	啓寿園 南東北福祉センター 笑風苑	10月27日(土)	40	カラオケ・踊り・日本舞踊・フラダンス・他全員で合唱
			11月20日(土)	45	
			12月15日(土)	30	



年 度	実行委員長	訪問先施設	実施日	参加者数	主 な 演 目
平成25年	常松 砦行	啓寿園	10月26日(土)	53	カラオケ・踊り・日本舞踊・フラダンス・他全員で合唱
		南東北福祉センター	11月30日(土)	39	
		笑風苑	12月14日(土)	32	
平成26年	渡辺 秀夫	啓寿園	10月25日(土)	65	カラオケ・踊り・日本舞踊・フラダンス・よさこい・フラッシュダンス 他全員で合唱
		オリオン	11月15日(土)	58	
		南東北福祉センター	11月29日(土)	76	
		おおつき	12月13日(土)	60	
平成27年	佐田 一志	オリオン	9月10日(土)	29	カラオケ・踊り・日本舞踊・フラダンス・よさこい・フラッシュダンス・楽器演奏・民話 他全員で合唱
		郡山せいわ園	9月17日(土)	58	
		啓寿園	10月15日(土)	59	
		南東北福祉センター	10月24日(月)	41	
		おおつき	11月26日(土)	41	
平成28年	本間 幸平	郡山せいわ園	9月17日(土)	52	カラオケ・踊り・日本舞踊・フラダンス・よさこい・フラッシュダンス・楽器演奏・民話 他全員で合唱
		啓寿園	10月15日(土)	63	
		南東北福祉センター	10月17日(月)	35	
		オリオン	10月8日(月)	66	
		おおつき	11月26日(土)	51	
平成29年	遠山 潔	啓寿園	9月16日(土)	72	カラオケ・踊り・日本舞踊・フラダンス・よさこい・フラッシュダンス・楽器演奏・民話・民謡 他全員で合唱
		郡山せいわ園	9月30日(土)	82	
		オリオン	10月14日(土)	52	
		南東北福祉センター	10月30日(月)	50	
		おおつき	11月11日(土)	68	

3 施設訪問活動の今までの活動状況及び平成29年度活動状況写真

①平成8年度～平成29年度の活動状況の写真







環境ボランティア実行委員会の10年間の活動

ボランティア活動の基本理念 1. 自発性・主体性、2. 社会性・連帯性、3. 無償性・非営利性、4. 創造性・先駆性に基づき、環境ボランティア実行委員会は、地域社会に還元する「小さな親切」の精神で、多元的活動を図り郡山市民や社会要望に対応する下記活動を実施している。

- ①ロード清掃 駅前から4号線までのアイラブロードのゴミ等を拾い、美化に寄与する。
- ②郡山市「布引風の高原」花による景観形成事業への参加と郡山市の「命の水」である美しい湖「猪苗代湖」の湖岸清掃を行う。
- ③環境セミナー開催 関心の高いテーマを選び、自己啓発推進の講習会を開催している。

年 度	活 動 内 容
平成20年度 大槻喜代志	<ul style="list-style-type: none"> ・環境セミナー 8月23日「家庭で出来る省エネ実践」 講師 県アドバイザー 長澤利枝 220名参加 ・ロード清掃活動 全クラス各々でアイラブロードの清掃を実施。ゴミ拾いを中心に指定街路の歩道を清掃した。
平成21年度 関根 義夫	<ul style="list-style-type: none"> ・布引風の高原フラワープロジェクトに参加 6月27日 ヒマワリの種まき 137名参加 8月29日 収穫 118名参加 ・ロード清掃活動 全クラス各々でアイラブロードの清掃を実施した。
平成22年度 樋口 誠康	<ul style="list-style-type: none"> ・布引風の高原フラワープロジェクトに参加 6月26日 大根、ヒマワリの種まき 111名参加 8月28日 収穫 130名参加 ・環境セミナー 7月28日「応急手当の基礎知識」 講師 郡山消防署 50名参加 ・ロード清掃活動 全クラス各々でアイラブロードの清掃を実施した。
平成23年度 渡邊 恒夫	<ul style="list-style-type: none"> ・布引風の高原フラワープロジェクト 震災で中止とした。 ・環境セミナー 第1回 7月28日「AED研修」 講師 郡山消防署 79名参加 第2回 9月17日「行政と放射能問題」 講師 元福島県知事 佐藤栄佐久 270名参加 ・ロード清掃活動 全クラス各々でアイラブロードの清掃を実施した。
平成24年度 藤川 泰正	<ul style="list-style-type: none"> ・布引風の高原フラワープロジェクトに参加 6月25日 大根、ヒマワリの種まき 75名参加 9月3日 収穫体験 69名参加 ・環境セミナー 第1回 7月7日「原発事故に伴う放射線被ばくの問題と健康寿命」 講師 あさひ内科クリニック 新井圭輔先生 117名参加 第2回 9月15日「郡山の放射線被害及び除染活動の実施状況」 講師 原子力災害対策直轄室 佐藤和雄氏、朝倉陽一氏 53名参加 ・ロード清掃活動 全クラス各々でアイラブロードの清掃を実施した。

年 度	活 動 内 容
実行委員長	
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・布引風の高原フラワープロジェクトに参加 6月24日 大根、ヒマワリの種まき 90名参加 9月26日 収穫体験 83名参加
越田 敏和	<ul style="list-style-type: none"> ・環境セミナー 第1回 7月6日「悪徳商法について」 講師 郡山消費生活センター 高橋智恵子相談員 88名参加 第2回 9月14日「認知症予防の食生活について」 講師 郡山女子大 藤本教授 109名参加 ・ロード清掃活動 全クラス各々でアイラブロードの清掃を実施した。
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・布引風の高原フラワープロジェクトに参加 6月23日 大根、ヒマワリの種まき 125名参加 9月8日 収穫 108名参加
齊藤 寿良	<ul style="list-style-type: none"> ・環境セミナー 第1回 7月5日「今求められている人材と学校教育の問題」 講師 富田学長 110名参加 第2回 9月13日「笑い与健康」講師 福亭龍笑氏 157名参加 ・ロード清掃活動 全クラス各々でアイラブロードの清掃を実施した。
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・布引風の高原フラワープロジェクトに参加 6月22日 大根、ヒマワリの種まき 120名参加 9月8日 収穫 108名参加
齊藤 寿良	<ul style="list-style-type: none"> ・環境セミナー 第1回 9月5日「しっかり噛んで飲み込んで長生きーその秘訣ー」 講師 奥羽大学学長 赤川安正氏 110名参加 第2回 1月16日「我が市の台所事情」 72名参加 ・ロード清掃活動 全クラス各々でアイラブロードの清掃を実施した。
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・布引風の高原フラワープロジェクトに参加 6月27日 ヒマワリ、コスモスの種まき 117名参加 8月29日 収穫 118名参加
宗像 英夫	<ul style="list-style-type: none"> ・環境セミナー 7月9日「高齢者の車運転について…落語一題」 講師 鬼生田顕英氏 122名参加 ・ロード清掃活動 全クラス各々でアイラブロードの清掃を実施した。
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> ・猪苗代湖 湖岸清掃活動 台風のため当日中止
野地 恒男	<ul style="list-style-type: none"> ・環境セミナー 第1回 9月2日「家族の介護が必要…その時あなたはどうしますか？」講師 社会福祉士 吉田光子氏 81名参加 第2回 1月13日「これからのシニアドライバーについて」 講師 中央総合自動車学校 校長 高荒健氏、指導係長 廣木和彦氏 ・ロード清掃活動 全クラス各々でアイラブロードの清掃を実施した。



1 アイラブロード清掃活動



2 環境セミナー



3 布引風の高原 花による景観形成活動



レクリエーション実行委員会のこの10年

1 概 況

あさかの学園開学後、学生間の趣味・嗜好・旅行などの催しや会合は、クラス単位や知己の友人が個々に集まり愛好会を組織し、または発起人となって単発的に開催していました。

しかし、学生会が、学生相互の親睦と交流を図る、より多くの学生の参加を図る、学生に自然に親しむ機会をつくることを目的に、その規模を拡大し、より多数の学生の参加を求めて、活動や催しをする必要があると判断し、学生会の組織として、平成19年4月1日から、レクリエーション実行委員会として発足したものであります。

平成19年10月23日、学生会は学生間のさらなる団結と交流を図るため、日帰りバス旅行を企画し、全学生を対象としたレクリエーションを計画、実施することになり、今日に至っています。

2 レクリエーションの実施状況

この10年の経過はつぎの表のとおりです。

回	年月日 (曜)	訪 問 地	参加人数	実行委員長
3	平成20年10月20日(月)	那須茶臼岳 アウトレット	227人	一篠 四郎
4	平成21年10月19日(月)	上杉神社 川西ダリア園	167人	笠井 整
5	平成22年10月25日(月)	村上、岩船	228人	高橋 洋
6	平成23年9月26日(月)	水戸、大洗	170人	石澤 邦茂
7	平成24年9月24日(月)	塩釜、松島	186人	越田 敏和
8	平成25年9月9日(月)	寺泊、弥彦	216人	伊藤 紀夫
9	平成26年9月29日(月)	山形市 ニッカウヰスキー	206人	伊藤 紀夫
10	平成27年9月4日(月)	日光白根山 戦場ヶ原	189人	八代 一郎
11	平成28年10月3日(月)	瑞巖寺 うみの杜水族館	168人	田村 實
12	平成29年9月19日(月)	弥彦神社 弥彦山散策	163人	宗像 英夫



3 今後の展望と課題

レクリエーション活動は、委員会発足当初の趣旨のとおり、相互の親睦と交流を図り多くの学生の参加を図る、自然に親しむ機会をつくることを原点として今後を展望すれば日帰りバス旅行のみの活動で果たして十分なのか検討する必要があります。

また、旅行の「テーマ」など策定することにより、単なる観光旅行に終わらせない工夫も必要です。それに、新入学の学生の参加が例年少ないため、彼らを多く取り込む広報と案内などきめ細やかな施策も必要に感じますが、芋煮会、野外フォークダンス交流などのイベントの企画と参加、協賛なども考慮に入れ、息の長い活動にする必要があります。最近では、実行委員会の創意工夫により移動中のバス内でのゲームやクイズなどのアトラクションを取り入れて内容も充実してきています。魅力ある、思い出が語り継がれる楽しい学園生活を期待するものであります。

4 レクリエーション当日の風景



16の愛好会

10年間の活動

ビビッドコーラス

会長 高橋 正 好

当ビビッドコーラスは、学園生徒と卒業生の集まりであり、現在100名近くの会員がおります。平成5年の創立当初より、学園祭には連続して出演し好評を得ていると自負しております。「ビビッド」とは、英語から名付けたもので、はつらつとした、躍動的な、きびきびとしたという意味で、私たち長寿社会に生きるグループの合言葉として使っています。

いわば、ひとつの大きな家族の様な親睦会でもあります。歌が好きであり、みんなと仲良くしたい方は、「いつでも入会」できますので、お声をかけてください。

皆様もこの世知辛い世の中を「ビビッド」に生きようと思いませんか。

現在、第8回郡山音楽フェスティバルや学園祭出演のために全員が出演できるよう阿部・川村両先生のご指導を頂きながら練習に励んでおります。

一つ新曲を覚えめると子供みたいに得意満面のこの気持ちわかるでしょうか！



第8回 国際シニア合唱祭 ゴールデンウェーブ in 横浜
2019年4月11日(木)12:00開演 聖蹟桜ヶ丘文化センター 大ホール 主催: 国際シニア

ゴルフクラブ

会長 石本 信 孝

あさかの学園ゴルフクラブは、平成19年4月に組織し、健全で楽しいゴルフコンペを開催しながら、会員相互の親睦を図ると共に、老化防止並びに心身の調和と感性を磨き、人生を豊かに生きることを目的にしています。

現在、クラブ会員は教養課程・専門課程・研修クラブの学生62名（男性57名、女性5名）で構成され、県内有名ゴルフ場で年8回のコンペを開催しています。

ゴルフコンペ以外に毎年新年会を開催し、特に今年は70回記念大会後に納涼会を企画する等、飲みニケーションでも親睦を深めています。

初めてゴルフされる方や女性大歓迎です。自然な空気を沢山吸って、皆さんで楽しくゴルフをしましょう。



スタート前のパター練習



全員の記念写真



ウォーキング・登山クラブ

会長 鈴木 貞 雄

当クラブは、今年で創立11周年を迎えました。発足当時125名でスタートした会員も現在は182名、OB会員90名のクラブとなりました。

4月から12月の毎月1回、安全第一でウォーキング・登山の例会を実施しています。

ウォーキングは、その季節に応じて自然や花を愛でたり、また歴史街道に思いを馳せながら歩き、毎月130名前後の参加があります。登山は県内の山を中心に初級コースを歩き、こちらは毎月60名前後の参加があります。

例会後は温泉施設で休憩し、多くの方と触れ合い、語り合い、仲間作りを楽しみに皆さん参加しています。



あさかの学園音楽鑑賞会

会長 渡 辺 昭

「あさかの学園音楽鑑賞会」は、阿部信幸先生が主宰する「音楽ボランティア響会」の協力団体として発足、平成14年の創設以来、年6回の合同麗会を活動の場として、毎会のゲストコーナーでは、次代を担う若い小中高生を招いて演奏を聴きます。なかでもマリンバを弾く柳沼輝さんの天賦の才には絶大な声援を送っています。鑑賞部門では、バッハ作曲の「マタイ受難曲」より最終合唱を聴いたのが印象に残っています。ベートーヴェンの交響曲、シューベルトの歌曲を、圧倒的な映像、音響の中で阿部先生が解説し学習するのも楽しみな時間です。さいごに「みんなで歌いましょう」では、川村彰子先生のピアノに合わせ時季に合った選曲を合唱し参加した意義を感じます。



平成29年度 第1回麗会 6月10日(土)
市内 中高校生による『弦楽四重奏』



随時 麗会に出演『郡山少年少女合唱曲』

あさかの学園カラオケクラブ

会長 遠藤 正和

こんにちは、当クラブの発足は定かではありませんが、先輩方によると10年以上の歴史があるとのこと。

カラオケの大好きな方々が現在、総勢11名で和気あいあいとユーモアを交えながら、厳しくもやさしい講師先生のもと、月に2回、楽しく活動しています。

課題曲が提供され、先生の適切なアドバイスにより、達成感や楽しみを感じることができます。また年2回、他のカラオケクラブとの発表会が開催され、その成果を発揮することもできます。

カラオケは健康に多くの効用が認められており、当クラブは若々しさにあふれ元気一杯です。初心者、経験者とも大歓迎です。皆さん一緒に歌い元気になりましょう。



あさかの学園フラ・マオクラブ

会長 白戸 亀代子

学園の創立30周年おめでとうございます。私たちのクラブは、発足11年目。現在会員数21名。辻フラ宗像先生の指導で月2回の例会と自主練習を行っています。年齢のせいか習得に時間はかかりますが、フラ交流発表会、ボランティア施設訪問、忘年会、親睦旅行などでも楽しい時間を共有しています。

「フラの歌詞は自然とか愛とか家族がモチーフ。人や自然に感謝してみんなで楽しめるもの」と聞いています。だからでしょうか、音楽に合わせて踊っていると幸せな気分になります。居心地のよい場を次に繋げていきたいと思っています。





旅行クラブ

会長 越智勝美

あさかの学園大学の創立30周年を迎え、真におめでとうございます。益々の発展と、学園生活を充実出来ると思います。当クラブは学生とOBを含めて活動しております。“ゆっくり・ゆったり・のんびり”で充実した内容と、美味しい食を求めて計画立案し、会員同士のふれあいを大切にしております。行程に余裕を持たせ早めに宿に着き、夜の宴会でお酒も入り、歌と踊りの発表の場となります。活動は1月新年会、3月総会一泊、春の一泊、夏の日帰り、秋の一泊旅行等楽しんでおります。又有志による食事会、花見、忘年会等も実施しています。私達と一緒に旅を楽しみませんか。



太極拳クラブ

会長 藤田 裕

クラブ紹介をさせていただきます。現在のクラブ員は21名です。毎月第2、第4土曜日10時から12時の2時間赤木公民館を中心に、村松性男、村松美恵子講師指導の下活動しております。簡化24式太極拳、練功が練習の中心になります。太極拳はゆっくりとした動きで、楽しみながら足腰を鍛えられ、転倒防止、脳の活性化が図られ、また年齢に関係なくどこでも気軽に来るのも大変良いところです。気のせいかクラブ員の皆さんが若々しく見えます。人生後半に入り、如何に健康寿命を維持するかが大変重要になります。充実した人生の一助に、太極拳はいかがでしょうか。



写経クラブ

会長 長谷川 廣之

写経は仏教経典を書写することで、心のリラクゼーションを求めて写経をする方が増えております。

最もポピュラーなものは276文字からの般若心経で、ひたすら写経に没頭することで清浄心を養うことです。写経クラブは東日本大震災の翌年に発足し、今や会員は22名となり、講師に大和田湖舟先生をお招きして月2回の例会を実施しております。(見学大歓迎)

無心で書写する事は大切な修行ながら、会員間の親睦・交流の場として納経旅行(昨年は中尊寺・毛越寺・瑞巖寺)や、芋煮会、昼食会と多催です。クラブの特徴として、各自の技量・スピードを守る事で進めています。



あさかの学園川柳クラブ

会長 齋藤 祐作

あさかの学園大学創立30周年記念の年を迎えられました事誠におめでとうございます。当“あさかの学園川柳クラブ”もお陰様をもちまして昨年創立20周年記念を迎える事が出来ました。当川柳クラブ発足の端緒となったのは郡山市あさかの学園大学の「研修クラブ」のカリキュラムに「文芸講座」を開いたのがきっかけで当時の副学長さんとも御相談申し上げ当学園大学の学生全員に呼びかけ発足したのが始まりでした。現在は月2回の例会をもち1回は外部から講師を招き御指導を頂いております。会場はビッグアイです。皆さま脳トレも兼ねて楽しい時間を共有しませんか。なお一般の方の入会も大歓迎しております。





あさかの俳句会

会長 村田久三

野馬追の武者となる髭申しけり
昭俊

上の句は俳人協会主催の全国俳句大会で、第一位最優秀賞に選ばれた会員の作品です。

「あさかの俳句会」は、平成14年に学生有志が自発的に立上げた、完全自治の句会です。よって、講師の先生等は招かず「一人一派」の自由闊達な作風を趣意としております。

発会当初からビッグアイを拠点に、月一の定例会句会及び年一の合同句集「山河」の編集が主な活動です。

ちなみに、会員は句座運営の制約上20名を基準としていますが、外に発展的に分会した「巨眠句会」「芳賀句会」等の姉妹俳句会がビッグアイに句座を設けております。



あさかの学園 コスモス社交ダンスクラブ

会長 小野卓二郎

60才からの社交ダンス。初めての人、踊ったことがある人、門田先生のもと毎月木曜日午後1時～午後4時の練習です。月会費4,000円、あさかの学園会員、一般会員10名です。皆さん定年後、楽しく過ごせるか不安でしたがあさかの学園に入ってから友人ができ、ウォーキング、ゴルフ、旅行、カラオケ、ランチ会等々充実した日々を過ごしています。音楽を聞きながら楽しく踊るのは、頭のボケ防止、体をうごかす、正に健康には一番元気のもとだと思います。

これから、社交ダンスを踊って楽しく過ごしたいと思いの方は、どうぞ見学に来て下さい。安積町サンフレッシュ会館です。詳しくは電話090-3646-2284 小野迄連絡下さい。生きている楽しさは、何ととっても健康です。皆さん楽しく運動をしましょう。

健康で楽しく踊る社交ダンス



やさしい茶道教室

会長 榎本 雄三

初歩から易しく優しく学べる茶道クラブを立上げ3年が経ちました。男性4名・女性16名の学園の学生と卒業生が、月一度ビッグアイ和室に集まり教室を開催しています。茶道経験のない覚えの遅い私達ですが、いつの間にか作法も様になって来ます。阿部仙妍先生には、茶道の稽古に加えて、茶道の歴史・茶道具・茶花・骨董品など伝統文化のお話を幅広く楽しく解説して頂きます。昨年度は学園祭期間に、100名を超える学園の皆様をお招きして初のお茶会を開催しました。夏には、浴衣着のお稽古を楽しみます。経験のない方も一緒におもてなしの心を感じてみませんか。皆さまのクラブへのご参加を、お待ちしております。



スクエアダンス同好会

会長 新貝 昇司

あさかの学園大学創立30周年おめでとうございます。今から6年前に、あさかの学園健康福祉科の仲間ですクエアダンスをスタートし現在33名で楽しく活動しております。このダンスは男女ペアが4組集まって8人が1つのグループになり、コーラーというリーダーの指示で軽快なリズムに乗って歩くだけのダンス。男女が互いに代わる代わる手を取り合いながら踊るゲーム感覚のダンスです。

- 1、最近忘れっぽくなってきた方。
- 2、家で疎外感のある方。
- 3、体を動かしてみたい方。

こんな方にピッタリのダンスです。毎週水曜日。10時から2時間、中央公民館をメインに活動しています。ご参加お待ちしております。

連絡先 080-5564-9793 新貝迄





書道墨っ子クラブ

会長 増子 哲三

クラブ発足2年目、芸術・文化学科だけに日本古来の書は最適であり、その奥の深さを学ぶことが結局自分を高めることになります。

日本人は和風が一番好みます。畳に床の間そしてやはり一幅の書です。自分の書自由に表現して、世界にないたった一つのを創り上げることです。

普及しているパソコンの文字は確かに間違いなく非常にきれいです。しかし百人が打っても全部同じ文字、歴史のある文字の起源から学びいかにしたら美しく味のある変化に富んだ作品を仕上げるかは決してやさしいことではありません。登ればまた山であります。

考えてみますと一週間の蟬であってはなりません。「青春ふたたびめぐる」のもと枯れてこそ人生。

広く世界を見ても、やわらかい毛筆、和紙に墨色を加味し思いのままに表現し広い会場に飾り美と技を競うことは日本の国だけです。

限られた人生、良い出会いを求め咲いた花には大きな実をつけたく、クラブ員皆さんと共に頑張ってます。



おとなの茶道クラブ

会長 佐藤 千鶴子

入学して半年過ぎた頃、クラス内で「お茶席に招かれたときに、物おじしなないでお茶をいただきたい」との共通の悩みがでて、自然にお茶クラブに発展した。会員内に経験者2人、坂本宗黎さんを先生に、月2回、1回300円で割り稽古を学んできました。主に、お点前、運び方、いただき方、男性4名、女性14名で2年間練習してきました。今年になって盆手前を学んでいます。市の中の諸茶行事は勿論、白河大茶会にも参加して大いに刺激を受けてますます意欲も増して、今年は鶴ヶ城秋季大茶会に参加する予定でいます。茶道を通して「相手を推し量る、忖度、おもてなし、おもいやり」等々、身を感じながら、クラブ内は勿論、クラス内にも、楽しい雰囲気になり、自己研鑽も兼ねて、次回を楽しみに待っている昨今である。



郡山市あさかの学園大学学生会会則

(名称、事務所)

第1条 この会は、郡山市あさかの学園大学学生会と称し、事務所を郡山市あさかの学園大学（以下「学園」という。）の事務局に置く。

(目的)

第2条 この会は、学園の学生としての自覚に基づき、より充実した学生生活を目指しつつ、その活動を通して、会員相互の理解と信頼を深め、啓発と親睦を図ることを目的とする。

(会員)

第3条 この会の会員はあさかの学園大学学生証交付の下記の者で、組織する。

(1) 教養1・2年生、専門1・2年生を正会員とする。

(2) 研修1・2年生を準会員とする。

(事業)

第4条 この会は、次の事業を行う。

(1) 学園行事への協力

(2) レクリエーション等会員相互の交流

(3) 会報の発行

(4) その他第2条の目的達成に必要な事業

(5) 準会員は全学行事には参加し、総会・理事会には不出とするが、各行事の実行委員会などには、適宜出席する。ただし、理事会の議決には参画しない。

(役員)

第5条 この会に次の役員を置く。

会長 1人 会計 2人

副会長 3人 理事 若干人

総務 2人 監事 2人

2 理事は、学級委員長をもってあて、監事は総会において選出する。

ただし、監事に欠員が生じた場合は、理事会で補充することができる。

3 会長、副会長、総務及び会計は、理事会で選出する。

4 役員任期は1年とし、再任を妨げない。

5 欠員のため選出された役員任期は、前任者の残任期間とする。

6 役員は、その任期が満了した場合においても、後任者が就任するまでは、引き続きその職務を行う。

(役員の仕事)

第6条 会長は、会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときまたは欠けたときは、その職務を代行する。

3 総務は、会長の指示により会務を処理する。

4 会計は、会長の指示により会計を処理する。

5 理事は、事業の企画運営にあたる。

6 監事は、会計を監査する。

(会議)

第7条 この会の会議は、総会及び理事会とし、会長が招集する。

2 総会は学級委員長及び学級副委員長をもって構成し、通常年1回開催して、

次の事項を審議する。

- (1)事業計画及び収支予算
- (2)事業報告及び収支決算
- (3)会則の変更
- (4)その他重要事項

3 理事会は、次の事項を審議する。

- (1)総会に提案する事項
- (2)事業の企画運営に関する事項
- (3)その他会の運営に関する重要事項

4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決する。

(会報編集委員会)

第8条 第4条に規定する会報発行のため、この会に会報編集委員会（以下委員会）をおく。

2 委員会は、委員及び会長の指名する副会長をもって組織する。

3 委員は、各学級から1名を互選により選出する。

4 委員会は次の役員をおき、会務を推進する。

委員長 1名 会長から指名された副会長を当て、会務を総括し理事会との連携をはかる。

副委員長2名 委員の互選により選出し、会長を補佐し、会務を推進する。

庶務 1名 会長の指示により会務を処理する。

(帳簿)

第9条 この会に、次の帳簿を備える。

- (1)会員名簿
- (2)会議録
- (3)会計簿
- (4)その他必要な帳簿

(会計)

第10条 この会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

2 会費は、正会員年1,500円、準会員年1,000円とし、年度始めに納めるものとする。

3 この会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(顧問)

第11条 この会に、顧問を置いて指導、助言を受けることができる。顧問は、会長が学長、副学長及び有識者を理事会の同意を得て推戴する。

(その他)

第12条 会長は、理事会にはかり、この会則を運用するため、細則を定めることができる。

附 則

この会則は、平成6年3月11日から施行する。

この会則は、平成8年5月13日一部変更する。

この会則は、平成9年5月12日一部変更する。ただし、第8条の規定は、平成9年4月1日から適用する。

この会則は、平成13年5月15日一部変更する。

この会則は、平成18年5月9日一部変更する。

この会則は、平成19年5月8日一部変更する。

この会則は、平成20年5月10日一部変更する。

あさかの学園大学の歌 (青春ふたたび)

詞: 星野哲郎
曲: 市川昭介

かせもきろめくあさかの
みずとみどりふるさとし
ふるきよきふをいしす

は—んかりーとにじーの
に—おりな—すしぎ—の
に—かいせ—いざん—は

おおせーがーわ—ああせいゆんふた
たのし—さ—よ—ああせいゆんふた
あすを—よ—ぶ—ああせいゆんふた

たぐめぐるこおリーやま—
たぐかえぐるこおリーやま—
たぐたぎるこおリーやま—

きょうのまあ—いにさちあ—れ
ともとまを—とりわけい—れ
なととしせ—んのふれあ—い

と—あだたらやまも
は—あすいのほとりは
を—あぶくまがわは

ほほ之みか之—す—
みずとみりうた—うす—
やさしくうつ—す—



あさかの学園大学の歌

青春ふたたび

星野哲郎

一、風もきらめく安積野は

光と虹の逢瀬川

ああ、青春ふたたびめぐる

郡山

今日の出会いに幸あれと

安達太良山もほほえみ返す

二、水とみどりのふるさとに

織りなす四季のたのしさよ

ああ、青春ふたたび帰る郡山

友と手をとり分け入れば

疏水のほとり水鳥うたう

三、古き良き日を礎に

開成山は未来を呼ぶ

ああ、青春ふたたびたぎる郡山

人と自然のふれあいを

あぶくま川はやさしく映す



郡山市あさかの学園大学 《 校 旗 》



[校旗：平成9年10月制定]

編集後記

作成委員長 佐田 一志

(専門課程2年 芸術・文化学科)

記念誌発行に当たり、卒業されました先輩方はじめ事務局の先生方それに今までご指導いただきました講師の先生方と全学生の皆様の力添えを戴きながら発行することが出来ました。

作成副委員長 石本 信孝

(専門課程1年 芸術・文化学科)

5月に創立30周年記念事業学生会実行委員会を立ち上げ、6月に記念誌作成委員会を組織し、学園事務局の皆さんと記念誌の作成に携われ貴重で楽しい経験をさせて頂きました。

作成委員 伊藤 弘

(専門課程2年 健康・福祉学科)

創立30周年の節目の年に立ち会えて大変嬉しく思います。そして、記念誌作成委員の一人として、孫に自慢できる出来栄に満足しております。

作成委員 田村 寛

(専門課程2年 郷土・生活学科)

本誌編集、卒業祝賀・研修移行委員会など週3回のビッグアイ往復は冬季のこともあり身体にへたが、他の編集委員との検討や語らいは楽しく思い出深いものとなった。

作成委員 宗像 広義

(専門課程2年 郷土・生活学科)

会報編集委員会の分担で、過去10年分の会報を読む機会があり、あさかの学園の歩みや会報の変遷などを知ることができたことに感謝いたします。また、皆さんの力の結集で、素晴らしい記念誌を作成できたことに満足しています。

作成委員 本間 幸平

(専門課程1年 健康・福祉学科)

あさかの学園の多くの学生が、ボランティア活動に関心を持ち、社会貢献につながる活動をしてきた過去の学生会の事業ファイルを拝見させて頂きました。現在でも続いている活発なボランティア活動が私達の暮らしを豊かに楽しいものにし、活動そのものが高齢者の生きがいにもなっていると感じました。

作成委員 瀬野 良子

(専門課程1年 芸術・文化学科)

あさかの学園大学30周年を迎え、記念誌の作成に携わり、校正に費やした時間も含め、関係者の皆様の熱意を強く感じました。次の40周年に向けて引き継いで頂けたらと願います。

作成委員 荒井 祐子

(教養課程2年 健康・福祉学科)

蒼々たるメンバーの中で2年生の私が編集委員として携わることになり、大変貴重な経験をさせて頂きました。後世に残る素晴らしい創立30周年記念誌ができたことを心よりうれしく思います。

作成委員 遠山 潔

(教養課程2年 芸術・文化学科)

私は施設訪問委員会他を担当しました。学生会が主体で、平成8年から社会奉仕活動(施設訪問)を行っている事は大変誇らしく、今後も引き継ぐ活動と強く感じました。

作成委員 鈴木 稔

(教養課程1年 健康・福祉学科)

創立30周年の節目に入学して記念誌作成委員に携わり光栄です。諸先輩方の学生会、運動会、学園祭の活動には“若者に負けない”という気迫に圧倒される。30年間の積み上げた輝かしい伝統を継承していきたい。

作成委員 大原 秀一

(教養課程1年 芸術・文化学科)

創立30周年という節目の年に学生会の活動も知らずに入学しましたが、記念誌やうねめ踊り、学園祭などの実行委員として携われたことは貴重な経験であり、とても良い思い出となりました。

作成委員 深谷 仁

(郡山市長寿社会振興センター所長)

雲一つない蒼穹のもと、ビッグアイと駅前広場の表紙と見開き。かつて駅西口再開発事業に従事し、整備エリアをロケーションとするあさかの学園大学に今は職員としてお世話になり、創立30周年の記念誌発行に加わることができて感慨一入です。

作成委員 小林 希一

幾度となく回を重ねた記念誌作成委員会。委員の皆さんの熱意と行動力にただただ感心するばかりでした。さらに、玉稿をいただいた方々に深く感謝いたします。多くの方々の力が結集された記念誌は、読まれた方々の心に残るものとなるでしょう。

作成委員 高田 洋乃

記念誌作成委員会が発足して以来、委員一同手探りで誌面作りに取り組みました。皆様からのご協力をいただき無事発行することが出来、深く感謝します。私たちの気持ちが少しでも伝わればうれしいです。

作成委員 塩田 陽子

あさかの学園大学創立30周年の年に、事務局にいられたこと、とてもうれしく思います。また記念誌編集にはたくさんの人の手が加わり、完成に至るまでの工程を見届けられたのも貴重な体験でした。

郡山市あさかの学園大学 創立30周年記念誌作成委員会



作成委員長	佐田 一志 (専門課程2年 芸術・文化学科)	
作成副委員長	石本 信孝 (専門課程1年 芸術・文化学科)	
委員	伊藤 弘 (専門課程2年 健康・福祉学科)	田村 實 (専門課程2年 郷土・生活学科)
	宗像 広義 (専門課程2年 郷土・生活学科)	本間 幸平 (専門課程1年 健康・福祉学科)
	瀬野 良子 (専門課程1年 芸術・文化学科)	荒井 祐子 (教養課程2年 健康・福祉学科)
	遠山 潔 (教養課程2年 芸術・文化学科)	鈴木 稔 (教養課程1年 健康・福祉学科)
	大原 秀一 (教養課程1年 芸術・文化学科)	
	深谷 仁 (郡山市長寿社会振興センター所長)	小林 希一 (事務局主任)
	高田 洋乃 (事務局職員)	塩田 陽子 (臨時職員)

表紙及び見開き写真：深谷 仁 (郡山市長寿社会振興センター所長)

郡山市あさかの学園大学創立30周年記念誌

発行日：平成30年2月
発行責任者：深谷 仁
編集：郡山市あさかの学園大学
創立30周年記念誌作成委員会
発行：社会福祉法人郡山市社会福祉事業団
郡山市長寿社会振興センター
所在地：福島県郡山市駅前二丁目1番1号
ビッグアイ7階
電話024-924-2957
印刷：石橋印刷株式会社
福島県郡山市富田町字中ノ目47-3



この印刷物は、環境にやさしいFSC®認証紙を使用しています。